

## Archaic Characteristics of Galelan Consonants within North Halmaheran, and the Reconstruction of Older Galelan Forms

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-02-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 和田, 祐一 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15021/00004469">https://doi.org/10.15021/00004469</a>

# 北ハルマヘラ諸語の子音対応と ガレラ語の示す古音

和田 祐一\*

Archaic Characteristics of Galelan Consonants within North Halmaheran,  
and the Reconstruction of Older Galelan Forms

Yuichi WADA

The North Halmaheran (NH) languages are regarded as belonging to the Papuan or non-Austronesian (NAN) language of the New Guinea area, which are radically different from the Austronesian languages. However, with few exceptions, the correspondences of the basic vocabulary of NH and the Bird's Head (BH) area of Irian Jaya have not yet been demonstrated, principally because the proto-forms of the basic vocabulary have not yet been reconstructed.

This article demonstrates the consonant correspondences of all NH languages and illustrates lenition, the main principle, together with other principles governing those correspondences, based on my field data plus the computer "KWIC Index" of most texts ever printed. Archaic consonants of NH languages are best preserved in the forms of Galela words.

0. はじめに	1) 子音対応
I. 目的と地域言語の概観	2) トベロ語における lenition
1) 北ハルマヘラ諸語とパプア諸語の関係	3) ガレラ語の語末音消失
2) NAN (非オーストロネシア諸語)の概観	IV. ガレラ語と他の NH 諸語との子音対応
3) 北ハルマヘラ諸語の概観	1) NH 諸語の概観とガレラ語の位置付け
4) PNH (北ハルマヘラ祖語)の再構	2) 子音対応表
II. 方法	3) ガレラ語と他の NH 諸語の子音対応 ——NH 諸語 中の ガレラ語の位置づけ——
1) データの収集と分析	V. 語末子音とその再構
2) K. W. I. C. による分析	VI. 北ハルマヘラ諸語の比較語彙表とガレラ語彙索引
III. ガレラ語とトベロ語の音素対応とその特質	

\* 国立民族学博物館第3研究部

## 0. はじめに

この報告は「日本民族文化の源流の比較研究」の1979年度海外調査費による北モルッカスにおける現地調査（6月20日～8月10日）、および同年度の文部省在外研究費によるライデン大学における文献調査（9月21日～11月20日）により得られた資料に基づく、北ハルマヘラ諸語の研究結果の報告である。

今日まで日本語や日本文化の系統にかかわる問題に関して、北ハルマヘラ (=NH) 諸語の資料が引用されたことが一度ならずあるが<sup>1)</sup>、日本においては、NH 諸語またはその中の一つの言語自体を研究したものがいないために、そのような引用を肯定的にも否定的にも論議することができなかった。

本論は、このような意味における NH 諸語研究の最初の段階として、その系統論の基本となる祖形の再構成を目指した基本語彙の調査と分析の報告である。

## I. 目的と地域言語の概観

### 1) 北ハルマヘラ諸語とパプア諸語の関係

北ハルマヘラ諸語の第1の特質は、それがオーストロネシア語族には属さないということである。

非オーストロネシア (=NAN) 諸語はオーストロネシア語族の分布地域であるマダガスカルからイースター島の間であって、オーストロネシア語族に属さない諸言語を、一括して、(その系統分類がまだ不十分な段階で)便宜的に与えた、いわばネガティブな名称である。

また NAN の分布も、アンダマンからタスマニアまで、と広義にとるものもあるが、ニューギニアとその周辺に限るものとして狭義にとるものもある。しかし、いずれの場合でも、NH 諸語は NAN に属する。

しかし、本論で問題となるのは、狭義の NAN であるから、原則としてパプア諸語という用語を用い、非南島語性が問題である時にだけ NAN を用いる<sup>2)</sup>。

NAN は上述の如くネガティブな名称であるから、そこに含まれる諸言語の間には何ら系統的な一貫性があるわけではない。従って、ニューギニアの東半分の NAN 諸語は比較的良好に研究され、資料がそろっているが、それは NH 諸語の系統究明の資

1) [岡 1958: 86]。このほかに pine (トベロ語「稲」) が引用されたことがある [馬淵 1974: 592]。

料としてはあまり役に立たない。

一方、ハルマヘラに最も近いニューギニア西半分、特に鳥頭地域 (BH= Bird's Head) の資料は貧弱で、ハルマヘラのガレラ語やトベロ語の辞書に匹敵するようなものがまだ公にされていない。

現在 NH 諸語は NAN の WPP (West Papuan Phylum) に属するという考えが、一応 Capell, Voorhoeve, Wurn 等の間で受け入れられ、その言語地図は Pacific Linguistics, Series C-No. 38 や Current Trends in Linguistics 8\* に折り込まれていて、いかにも定説化したかの印象を与えているが、まだ次の2つの問題が残されている。

- ① NH 語彙の祖形の再構成が未だ行なわれていない。
- ② 鳥頭地域の語彙目録が貧弱である。

本論は、この①の問題に関わるものである。②に関しては、Capell も次のように述べている。即ち「最近の Cowan の研究は、NH 諸語とニューギニア西北部の鳥頭地域の(幾つかの)言語との間に(何らかの)親族関係があることを示したが、しかし決定的なことはまだ何も言えない (...nothing definitive can yet be said about them.)」 [CAPELL 1975: 669]。

ここで引用された Cowan の見解というのは、鳥頭 (BH) の幾つかの言語と NH との間に、人称代名詞 (殆どの例が動詞の接頭辞) の第1音素の対応がある(表1)、ということである。ただ一つの音素だけが対応するというのでは、いかにも疑わしいが、人称代名詞の体系として対応しているというところに無視できないものがある。他に文法語彙でない語彙の対応が引用されているが十指を屈する程度である(表2) [COWAN 1957: 87-89]。これは、ひところ、日本語と朝鮮語の間にあるとされた対応を思い起こさせる。この程度で同系が証明されるのなら、日本・朝鮮両語は当然同系とされる場所である。特にこの中で“five”の項は表1の場合も表2の場合も

---

2) Papuan と Non-Austronesian という2つの用語があって、諸家の間には依然としてその両方が用いられている。Non-Austronesian といえば、ネガティブな名称であるから、Austronesian でないというだけのことで、それは必ずしも同系のまとまり (genetic unity) として一貫しているわけではないことを暗示しているが、地理的広がり の範囲は明示していないから、Austronesian でないものというのなら、日本語も含むのかと問うことも可能である。

この点で Papuan という用語は地理的な位置がはっきりしており、チモールやソロモンのような周縁部を含むにしても、日本語は、というような極端な話にはならない。Papuan という用語にはこの点にメリットがある。しかし、一方、Papuan という用語はその名のもとに扱われる諸言語の間に同系性があるかのように聞こえる欠点がある。かりに同系性があるわけではないことわっても、今度はパプアに分布する AN も含むのかと問われる可能性もあるので、これにも難点がある。このように NAN と Papuan の用語は、いずれも得失があるので、NAN といえばパプア地域に限定することを暗黙の前提とし、Papuan といえば NAN に限ることを暗黙の前提として共存しているのが現状である。

表 1

A	English	Kalabra	Moraid	Moi	NH
	I	tit	tit	tiku	to-, ti-, ta-
	thou	mejanin		nin	no-, ni-, na-

B	English	Karón	Madík	NH
	I	tat	djí	to-, ti-, ta-
	thou	nan	nan	no-, ni-, na-

C	English	Ajamaru	NH
	I	t (e)-	to-
	thou	n (e)-	no-
	he {him}	j (e)-	{-i-}
	she	m (e)-	mo-
	we {us}	n (o)-	{-na-}, (ŋo-)ne, (ŋe-)ne
	you	n (e)-	ni-
	they	n (e)-	ona(-ŋa), ana(-ŋa)

この表は Cowan の表をより明晰にし、論点がはっきり浮きぼりになるよう、提示の仕方を整理したものである。たとえば、最初の I の例を引けば、Cowan の原表は NH 諸語に関して “P., Tab. noi, Gal., Tob. ñohi, Loda ñodji, Tern. ñori (以上独立形); pron. pref. to-, ti-, ta-” としているが、ここでは to-, ti-, ta- の部分だけが問題であるから独立形の提示は不要である。ここに引用されている 1 人称単数主格代名詞はそれぞれ、to-, 目的語をとらない; ti-, 目的が 2 人称複数; ta-, 目的が 3 人称 (単複)、の場合の従属形式で動詞語幹の頭部に接辞される。

表 C の -i-, -na- は目的格人称代名詞で、主格代名詞と動詞語幹の間に挿入される形である (pronominal prefixes)。また Ajamaru 語の n(o)- に対応する NH の部には 1 人称複数 exclusive の mi- と同じく inclusive の po-, wo-, fo-, ho- が示され、n(o)- の対応形としては -na- と独立形の ñone, ñene が示されているが 3 例とも inclusive である。また po-, wo-, fo-, ho- は当然 \*po- として再構されるべきものである [本報告の p. 458 の No. 231 (2) 参照]。Ajamaru 語には incl., excl. の対立はないが [Cowan 1957: 90], NH にはある。

dubious だから discount を考慮するべきだと Cowan 自身が言っている。“eye” と “hear” の例も余り説得力がない。

地理的隣接の故に類型論のレベルで論ずることがゆるされるならば、NH 語群独特と思われる複雑精緻な方位接辞の体系と統辞構造が、その根拠にせよ、鳥頭地域の言語に認められれば、同系の証として、かなり有力な根拠となるであろう [和田祐一 1979: 198-204]。

原表 [Cowan 1957: 87] では、head の NH の部分は P. saek, Tob. haeke, Tab.

表 2

A	English	Kalabra	Moraid	Moi	NH (*by Wada)
	head	safas	sawag	sagusu	*sahek
	meat	wakén	pégé	wegem	*lakem
	eye	sifoko	—	wisuwoo	*lako
	tree	kout	—	wout	*gota, *hate
	water	kala	kě	kala	*aker
	hear	ne-win	ne-weni-fése	—	*isen
	stab	seka	n-sga-sé	—	*sakar
	five	mohot	mahat	mafut	*mo-toha

B	English	Karón	Madik	NH (*by Wada)
	nose	m-unnguwen	—	*ɟunug
	fish	boge	wo	*nawok
	feather, hair	go	gwo	*gogo
	five	mek	mek	*mo-toha

*saeke*, Sahu *sa'e*, Gal. *sahé* とあるが、祖形としては、明らかに \*sahek であるから本表は祖形 1 つで NH を代表させた。その方が比較もし易い。以下すべての祖形についても同様であるが、〈stab〉の NH は Cowan 自身が \*sakar の祖形を措定しているが、筆者の考えと一致している [和田 1980: 507]。また five の例に関しては Cowan 自身 metathesis を仮定しての話だから dubious だと言っている。meat と eye の例に関しては BH と NH との間に w/l の対応があるとし、これを補強するのに P. *lepe*, Tob. *woe*, “much” と P. *kolan*, Tob. *koano*, “king” および P. *molaju*, Tob. *moaju* “Malay” を NH の例から引き、Bird’s Head の側からは Kl., Mr., Moi の間では w:f:p の対応が “head”, “meat”, “eye” の例に見られるとしているが、それぞれ NH 内、および BH 内での対応であって、だから NH, BH 相互の間での対応原理になるとしてもよいものであろうか。これは単に普遍的な対応例で世界のどの言語にも認められ、このよう

表 3

English	bird	feather
Karón	nam-(gan)	namgo
Madik	dam	damgwo
NH	*namor	

English	meat
Kalabra	wakén /w-/
Moraid	pégé
Moi	wegem /w-/
Pagu (NH)	lakem /l-/
Tob. (NH)	akeme /∅-/
(NH)	*lakem

な対応を内部にもっている集団どうしを結びつける理由にはならないと思う。もしそうだとすれば、これら BH の NAN は AN だということになってしまう。なお Cowan が表ではなくてテキストの中で引用した次の例は、むしろ表にする価値があったかと思われる(表3)。

## 2) NAN (非オーストロネシア諸語) の概観

ニューギニア本島の言語分布を最も上位のレベルで概観すると、まず全体が圧倒的に NAN に覆われており、沿岸部を細く、所により切れ切れに AN がふちどっている(ただし怪鳥の胸から腹にかけての部分だけは沿岸部も AN に侵されていない)。ニューギニア本島はいわば NAN 大陸である(図1参照)。1箇所だけ、怪鳥の首のところに AN がこの島を横切っている部分がある。怪鳥が口を開いた奥歯のあたりから、うなじにかけての地峡の部分である。

ニューギニアの大部分を占めている NAN の部分について概観すると、まず面積の上では NAN の大部分が Trans-New Guinea Phylum (=TNGP)<sup>3)</sup> と呼ばれる語族によって覆われている。TNGP に属さない部分は本島内には3箇所あり、それは、頭と、肩と、腰の背、の部分である。頭部には West Papuan Phylum (WPP)<sup>4)</sup> が

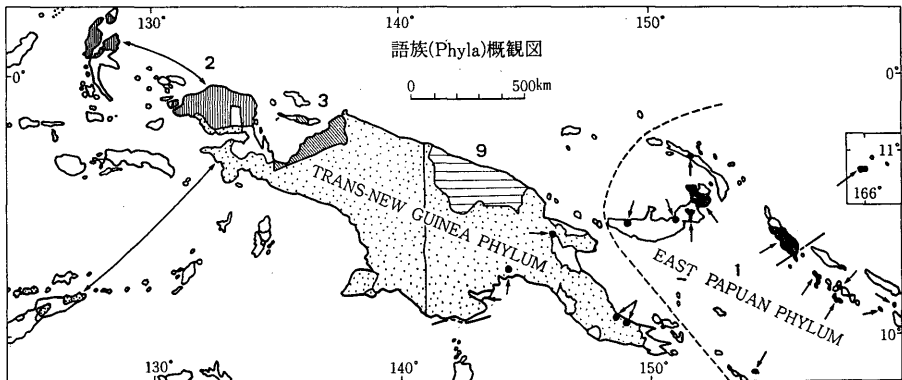


図1 この図は Wurm の Phylic Groups [1975 Map II] をもとにして作図した語族概観図である。数字は語族 (phylum) の数。

3) Phylum という単位は生物の分類学用語からとったものであり、生物学では「門」と訳されているが、言語学で用いる場合は、phylum が最上位の単位で語族に相当し、上から順に phylum/sub-phylum/super-stock/stock/family/language とされている。

S. A. Wurm によれば、北ハルマヘラ諸語は stock-level family である [WURM 1975: 24]。4) かつて、NH 語群は WPP<sub>1</sub>、Alor-Timor 語群は WPP<sub>2</sub> として、両語群とも WPP に属するとされていたが、Capell は Alor-Timor 語群は WPP ではなく TNGP (貫ニューギニア語族) の方に属するとする意見を出し [CAPELL 1975: 671]、今日、大方の支持を得ている。

2 語族、肩の部分には Geelvink Bay Phylum を主体に 3 語族、腰の背には Sepik-Ramu Phylum を主体に 9 語族が分布し、面積の上では TNGP よりはるかに狭いが、それでも NG の中で major な phylum となっている。このほか、尾の部分に孤立語が 3 語族あり、これらを本島外の東部諸島に分布する East Papuan Phylum とともに一括すると、現段階では 19 の語族 (語門 phyla) が存在することになる。

系統不明の言語——日本語のように資料が充分にあるのに系統が不明だというのはなくて、資料不足のために系統が不明な言語——がこのように螺集している地域は、現代世界にもう僅かしかない。しかし、いわば言語学上の暗黒大陸であったニューギニアも 1960 年頃から急速にその相貌が明らかになってきた。700 ともいわれるその多様な言語も、系統的にようやく整理され、1975 年頃には大部分をカバーする主要な語族の数も五指を屈する程にしばられてきた。major な少数の語族が解明されるにつれて minor な語族——1 つの語族の中に含まれる言語の種類が少なく、同時に使用人口も少ない、という意味での minor な語族——が析出され、その分布の様相も明らかになってきた。

### 3) 北ハルマヘラ諸語の概観

北ハルマヘラ諸語は 10 の言語から成っており、語彙 (gloss) の対応から明らかに同系の 1 群をなしている (図 2)。このグループの下位分類は未だ十分に論じられていないが、現在までに確認されている点をあげれば次の通りである。( ) 内の数字は図 3 のそれを指す。

- a) (1)~(4)には冠詞があるが、(5)~(10)にはない。
- b) (1)~(7)は後置詞を用いるが、(8)~(10)は前置詞を用いる。ただし(7)は(8)の影響を受け易い状況にあるので、現在、後置詞から前置詞への移行の過程にあり、この問題は、筆者が1979年に既に報告した [和田 1979: 202-204]。
- c) (10)は最も特殊な語形を保っており、他の(1)~(9)とは画然と区別される存在である [VOORHOEVE 1981]。

その他、次のような諸特徴が認められる。

(1)~(4)の下位分類は、(1)の Galela 語が規準形 (canonical form) と見られる 3 音節語形の語尾の音節が欠落して 2 音節になっていることで、他の(2)~(4)はそうではない。同様の現象は(8)(9)にも見られるがフォールフーヴェは、(8)が(1)に影響したのではなく、それぞれ別個に生じた可能性を考慮している [VOORHOEVE 1981: 4-5]。



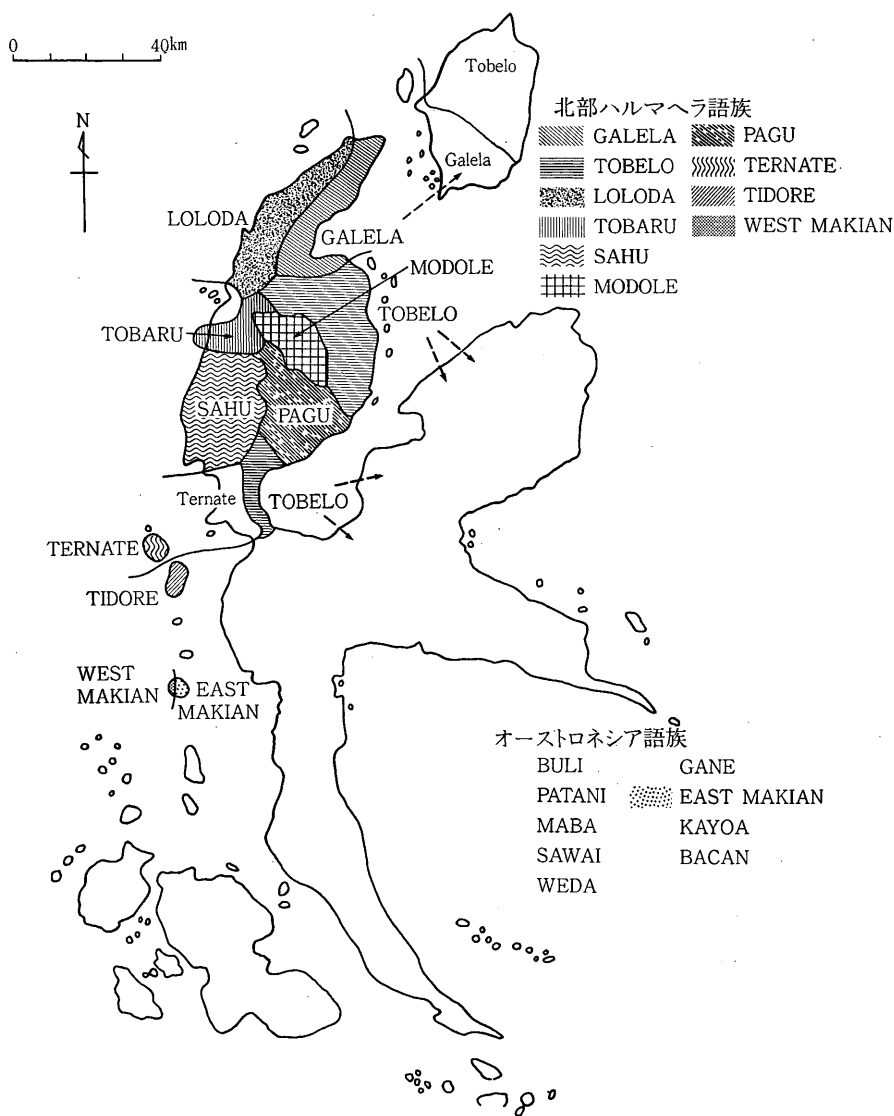


図2 北ハルマヘラ諸語の言語分布図

この図は『国立民族学博物館研究報告』2巻3号444頁、吉田集而の「ハルマヘラ島およびその周辺の言語地図」から北ハルマヘラ諸語にかかわる部分だけを取り出して作図したものである。北半島以外の地域のNH諸語は、移動や他言語を話す民族との混住が多いので詳細は略した。ただトベロ語が主として対岸に拡散したことを矢印で示すとどめた。カイヨア島は西マキアンが優勢と聞いたが、Watusukeの調査と一致しないので今回は略した。

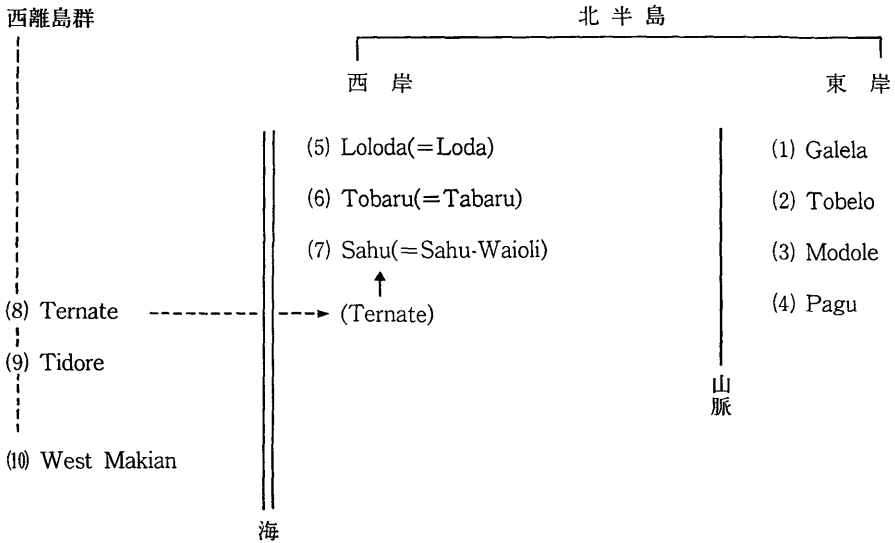


図3 北ハルマヘラ諸語関係模式図

さらに(2)~(4)のうちで特殊と見なされるのは(4)のPagu語で、これは語末音節が -k, -ng, -l, -t, -m, -n, -s で終る語はその後に寄生母音を伴わないために閉音節を形成し、この点で他の諸語と異なっている。

土(地) [インドネシア語 tanah]

(1) tona		Galela
(2) tonaka		Tobelo
(3) tona'a		Modole
(4) tonak		Pagu

なおこれら(1)~(4)の諸語はすべてNH北半島の東岸沿いに分布し、西岸沿いの言語とは南北山脈によって隔てられている。

これに対して(5)~(10)の諸語はすべて西岸沿い、または西岸沖の南北列島に分布している。このように大きな地形的障壁によって分かれた2地域に言語の構造的差異が対応することは、他民族の流入が特に頻繁であった西岸沖のTernateという文化的中心地の存在が言語を変化させた可能性を感じさせる。言語変化の最大の原因の一つは、他民族による当言語の使用だからである。構文の面からも、Ternateに近く程SOVからSVOに変る傾向が顕著で、最も遠いGalela語は厳密にSOVを守っている。

しかし、このような Ternate の影響以前に語群内で発生した分岐の可能性もありうるし、地形的な要因が作用した可能性もある<sup>5)</sup>。

#### 4) PNH (北ハルマヘラ祖語) の再構

上記の如く、すでに NAN 諸語内における NH の位置付けが試みられ、BH 地域に分布する西パプア語族 (WPP) に属するとする説は、正面切つての反論も現れぬまま、人々のプロスペクトの中に腰を落着けそうである。にもかかわらず nothing definitive [CAPELL 1975: 669] という不安が依然として残る理由は、やはり NH 祖語 (PNH), BH 祖語の措定が未だ行なわれていないからにはほかならない。しかしながら祖形再構の試みが過去において全く行なわれなかったわけではない。たとえば1908年 Hueting が AN に属する南ハルマヘラの Buli 語との異質性を明らかにするために北ハルマヘラ諸語の例として(1言語をあげず Tern. Halmah. として)共通形を43例作って対比しているのは、まさに祖形再構の試みと見てよい[HUETING 1908b: 411]。また、その後も、Hueting のようにリストの形をなしてはいないが、幾つか単発的に、ただしはっきりと祖形(少なくとも、より古い形または共通形)であることを示す<\*印>を付けて公にされた例がある。すなわち \*sakar (stab) [COWAN 1959: 87], \*namor (bird) [COWAN 1959: 89], などの例である。また Tidore (TD) と West Makian (WM) との間に措定される祖形 \*gubual (termite), \*okoko (chin) [VOORHOEVE 1981: 6, 8] などがある。1音素だけの古音(祖音)の措定は、上記諸例に関連して各所で言及されている。

以上の如く、PNH の再構は全く行なわれていないわけではないが、過去の試みは、すべて、いわば第1歩にすぎないことを諸家はことわり、まことに慎重である。その理由は、基礎語彙における比較的現代に近い時期の、特にマレー語からの借用は勿論のことであるが、他の AN 系(南ハルマヘラ以南の AN 系、セレベス(特にメナドを中心とする東北端の地域)の AN 系、それに重要なのは Sangir, Talaud の AN 系)からの借用語の PNH への混入を警戒するからである [VOORHOEVE 1981: 24]。特に注意すべきは、NH 諸語内に生じた音韻変化の初期に AN 系から借用された語彙

5) この地理要因については、フォールフーヴェは特に触れてはいない(以下種々の問題点に関して、オーストラリア国立大学のフォールフーヴェ教授の意見を考慮しながら論述するが、フォールフーヴェの意見は1981年6月1日から5日にかけてジャカルタで行なわれたハルマヘラ・ラジャアンパット・セミナーにおいて発表された Some Comparative Notes on the Non-Austronesian Languages of North Halmahera の報告によるものである。彼は筆者が1980年に発表した英文報告 [和田 1980a] を読み幾度か引用している。また、同じく筆者が1980年に発表した英文報告 [和田 1980b] 中の Aspects of Directives in North Halmahera Languages も読んでいる。

が、その後の NH 内の音韻変化を受けて、一見したところ AN の形とは全く異なった形になっている場合に、うかつに NH 語として祖形再構に参加させる危険があるからである。後述する P-1/P-2, K-1/K-2 などの別は、このような借用の時期のちがいでよって生じた可能性がある。

ここで従来 NH 語群を他の諸語と比較または対比させる際に諸家が落ち入りがちであった危険性について触れておきたい。それは筆者が NH 系統論においてガレラ語の子音音素を重視する原理に関わるからである。

従来、NH の語彙をイリヤン・ジャヤ（特に BH）のそれと比較または対比させる時、最もよく引用されたのはトベロ語の語彙である [CAPELL 1975: 686-8]。また幾つかの NH の語彙が平列的に、つまり、どの言語が最も古い形（または音）をよく保存しているかという評価をしないで並べられていた [COWAN 1957: 87]。これは一つにはヨーロッパの言語から引くことのできる NH 語としては、オランダ=トベロ語辞典しかなかったからであろう [HUETING 1908a; ROEST 1905]。また、Pagu 語の語彙の形が古いという評価がなされるようになってから Pagu 語も引用されているが、Pagu 語彙のリスト [ELLEN 1916a] は、オランダ語から引くことはできないし、また語彙の量やその解説のくわしきにおいて、トベロ語のそれに及ばないため、引用例はやはりトベロ語の方が多い。Pacific Linguistics Series C-38 の Greenberg の例はトベロ語が大部分を占めている。ところがトベロ語は NH 諸語中、最も音韻変化の進んでしまった言語であって、NH 語群の代表として他の言語と比較・対比するには最もふさわしくない形をしている（特に子音において）。この事実が今日まで指摘されなかったのは、NH 諸語の子音音素対応(表)と、それによって明らかにされる子音音素の新旧の評価が行なわれなかったためである。本論の主目的はここにある。またその結果、現在最も古い子音を保っているのがガレラ語であることが明らかとなった。これによって NH 祖語の再構は、明らかに一步前進し、これが本論の存在理由だと筆者は考えている。

NH 諸語が、たがいに極めて近い親縁関係にあることは、その語彙 (gloss) を比較してみれば一見して分かる程であり、その故に、NH 諸語が同系の言語であることはつとに知られていた<sup>6)</sup>。また NH 諸語内の音素の対応も部分的には Fortgens

6) ただし Ibu は他の NH 諸語にくらべて音韻対応が特殊であるため (例えば  $\eta \rightarrow n$ )、ハルマヘラ外から来た集団によって受け入れられた NH 語かとも思われるが、今日では消滅して Hueting の list に姿を留めるだけのようである。しかし、Ibu 地域は部落ごとに言語がちがうということから1976年の調査の際に聞いたことがあり、Hueting の informant もそのような条件のもとである集団を代表する特殊例かもしれない。

また、西マキアン語は、他の NH 諸語とはかなり語形が異なるとはいえ、やはり NH 語群

[FORTGENS 1928], Van der Veen [VAN DER VEEN 1915] などによって既に指摘されていた。しかし NH 諸語全体の子音の対応とその原理が明らかにされていなかったのは、そのために必要な資料が十分に集められていなかったためであろう。しかしヒューティングの NH 語彙表 [HUETING 1908b] は250の語彙について NH の11の言語にわたって対照表を作っている。すなわち 1. Isam, 2. Tololiku, 3. Galela, 4. Loda, 5. Tobelo, 6. Madole, 7. Tabaru, 8. Waioli, 9. Ibu, 10. Ternate, 11. Tidore, の11の言語である<sup>7)</sup>。

この段階で、NH 祖語 (PNH) の再構はある程度可能であり、Huetting は、彼の表を示した後で子音の対応を論じている [HUETING 1908b: 408]。またその後で AN 系南ハルマヘラ (SH) の Buli 語と対照させるため NH の祖形と思われるもの (共通形) を43語示している [HUETING 1908b: 411]。しかし250語中、残りの207語については共通形を示してはいない。また、彼の表は  $250 \times 11 = 2750$  のすべての欄が埋めつくされているわけではなく、そのうち34%は空欄になっている。例えば Ibu 語に関しては30語例 (12%) が示されているだけで、あとの220欄は空白である [HUETING 1908b: 376-407]。また彼の選んだ250語の語彙は今日学界の常識となっている Swadesh の基礎語彙200が全部は含まれていないし、Swadesh 100語の中にさえも含まれていないものがある。これは今後、種々の言語と比較するのに不都合である。また、表の語彙の配列も動詞と名詞が混じって並んでいるなど分類整理がきちんできておらず、索引もできていないので検索するには、はなはだ不便である。

これらの欠点を前車の轍として、筆者は、Huetting の表の空欄を埋めるということではなく、新たに Swadesh の表に従って NH 語群に適した基本語彙原表を作り、

に属するとされるのが近来の学界の傾向である。しかし AN に属する東マキアン語に近い、または全く同じ形で NH 諸語には全く見られない形も認められるので、このような点も見落してはならない(表4)。

表4

	339	448	497
English	float	round	and
Indones.	timbul	bulat	dan
N. Halmaheran	*bawor	*pulumun	*de
W. Makian	yarin	boko-boko	lo
E. Makian	myaring	bakboka	lo

7) このうち 1. Isam と 2. Tololiku は Pagu 語の方言として一括され、8. Waioli も Sahu の方言とされて今日に至っている。[Veen 1915: 4]。9. Ibu は、現在では消滅したものと見られている [VOORHOEVE 1980: 1]。

このすべての語彙に関して、現地で聞きとり調査をおこない、さらに過去において文字化された民話をコンピューターで分析し K. W. I. C. 語彙表を作製して聞きとりの裏付け補強を行なった。

この報告における具体的な作業をまとめると次のようになる。すなわち、

第1は1976年の北ハルマヘラ・リマウ (Limau) 村でのフィールドワーク、および1979年の同じく北ハルマヘラ・テルナテ (Ternate) でのそれ、この2つから得たデータを分析して NH 語群基本語彙対照表を作製すること。

第2は、この表から子音音素の対応を明らかにし、その対応を支配する原理を明らかにすることによって今日の Galela 語に子音の古い形が最も良く保存されていることを示し、PNH 再構の基礎を固めることである。

## Ⅱ. 方 法

### 1) データの収集と分析

インタビューは大部分インドネシア語で行なったが、インフォーマントの中にはインドネシア語の他に英語を話せる者と、日本語を話せる者があったので、この人々に関しては2つの言語から語彙のニュアンスをチェックすることができた。英語も話せたのは東マキアン語を母語とする S. Latif, チドレ語を母語とする R. R. Sandiah の両氏であった。後者は国際音声字母で母音の一部を解説してくれた。日本語を話せたのはガレラ語を母語とする Y. Salama 氏であった。これは戦時中、北ハルマヘラに約5万人いたといわれる日本人の一部との接触によるものである。特にテルナテでは親日的な現地の人に会うことが多く、日本語を用いることに気がねは全くなかった。音声資料はすべて録音をとると同時に国際音声字母で記述し、後に音韻体系を確かめた上で、現インドネシア語の正書法にのるような音素表記に書き改めた。ただし、インドネシア語正書法では表せない音素は付加記号によって識別できるようにした。詳細は対照語彙表のところで説明する。

特に注意したのは1言語に関して少なくとも2名のインフォーマントから聞き取りを行ない、個人的なかたよりを補正するようにしたことである<sup>8)</sup>。

8) Galela の Limau 村滞在中は、最も多くの、また最も優秀なインフォーマントに恵まれた。特に Duma 村村長 Walter Thomas 氏の病をおしての長時間の協力には感謝のほかはない。また Lalonga 村の Modibo Sidiga 老、Limau 村の Abdulla 導師ならびに Soa-sio 町の Abdul Kadir Rahadi 氏の度重なる協力に厚く感謝するものである。なお1979年テルナテにおける情報提供者は次の方々である。感謝と共にその名を記録に留める。

## 2) K.W.I.C. による分析

一方、国立民族学博物館に備えられたコンピューターのおかげで、今日までにローマ字化された NH 諸語の民話資料は、それぞれの言語ごとに文脈付語彙検索表 (K.W.I.C.<Key Word in Context) が作製されたため、実質的には辞書ができたのと殆ど同じ状態となった<sup>9)</sup>。またオランダ人宣教師 Van Baarda によって編集されたオランダ語解説によるガレラ語辞典から逆にオランダ～ガレラ索引 (つまりオランダ語からガレラ語を探し出す辞書に相当するもの) が編集された。この種の索引は従来 Tobelo 語に関してしか存在しなかった [HUETING 1908a; ROEST 1905]。

## Ⅲ. ガレラ語とトベロ語の音素対応とその特質

### 1) 子音の対応

ガレラ語地域とトベロ語地域は隣接しているにもかかわらず、この2つの言語に関して同系の語 (gloss) を対応させると、いちじるしい相異が見られることが少なくない。namo〈鳥〉のように両語で全く同じものも多いが、〈果実〉のようにガレラ語

なお Tobelo と Sahu の語彙に関しては、それぞれ Yale 大学の Paul Taylor 氏と Leiden 大学の Leontien Visser 嬢から語彙資料の提供を受けた。あわせて感謝する次第である。

言語インフォーマント

- Galela: (Mr.) Yohanis Salama, 1918 Galela (at Dokulamo) 生。  
 (Mr.) Niko Peleu, 1940 Galela (at Dokulamo) 生。  
 Modole: (Mr.) Ahmad, 1929 Tidore 生 (子供の時は Modole)。  
 (Mr.) Yonas Gato, 1957 Modole 生。  
 Tobaru-Ibu: (Mr.) Lukas Tjahaya (sic), 1912 Jailolo 生。  
 Sahu: (Mr.) Frederik Sipollo, 1926 Jailolo 生。  
 Waioli: (Mr.) Frederik Sipollo, 1926 Jailolo 生。  
 Ternate: (Mr.) Hassan, 1919 Ternate 生。  
 (Mr.) Asura Samail, 1959 Ternate 生。  
 Tidore: (Mrs.) R. Ramli Sandiah, 1944 Tidore 生。  
 (Mr.) Ade Jafar, 1958 Tidore 生。  
 W. Makian: (Mr.) Thaib Armayn, 1941 Kayoa (Lelei 島) 生。  
 E. Makian: (Mr.) Samad Latif, 1930 Ternate 生 (E. Makian 語の家族にそだつ)。  
 (Mr.) Hakim Ahmad, 1957 E. Makian 生。

9) 国立民族学博物館で製作された NH 諸語の K.W.I.C. は次の6言語である。プログラムの製作は杉田繁治助教授と山本順人助手 (現在、筑波大学) による。

言語	原典
1. Galela	Baarda [1895: 195-555]
2. Loloda (=Loda)	Baarda [1904: 392-441]
3. Pagu	Ellen [1916a: 143-195]
4. Modole	Ellen [1916b: 199-232]
5. Tobaru (=Tabaru)	Fortgens [1928: 412-543]
6. Ternate	Fortgens [1930: 219-297]

表5 ガレラ語とトベロ語の子音対応

	initial			medial		
AA (cf. p. 509)	130	171	231(2)	208	32	126
English	<i>woods</i>	<i>night</i>	<i>we</i> (inc.)	<i>child</i>	<i>nail</i>	<i>fruit</i>
Gal. /p/:	ponga	putu	po	ngopa	gitipi	sopo
Tbe. /h/:	hongana	hutu	ho	ngohaka	gitihiri	hohoka

222語中の他の例は 157, 186, 200, 225, 299, 345, 426.

	initial			medial		
AA	91	278	289	1	33	38
English	<i>animal</i>	<i>smell</i>	<i>spit</i>	<i>head</i>	<i>leg, foot</i>	<i>skin</i>
Gal. /h/:	haiwani	hame	hobi	sahe	đohu	kahi
Tbe. /Ø/:	aewani	ame	obiri	sacke	you	kai

222語中の他の例は 310, 346, 380, 418, 485, 182, 183, 189, 461(=463)

	initial			medial		
AA	427	485	140	60	325	189
English	<i>big</i>	<i>good</i>	<i>lake</i>	<i>meat</i>	<i>sleep</i>	<i>twenty</i>
Gal. /l/:	lamo	loha	talaga	lake	kiolo	monohalo
Tbe. /Ø/:	amoko	oa	taaga	akene	kioko	monoako

222語中の他の例は 141, 164.  
 ヒューティングの語彙の例 55, 101, 107, 129, 156, 184, 189.

	initial			medial		
AA	33	149	315	328	Ht.201	Ht.43
English	<i>leg, foot</i>	<i>smoke</i>	<i>swell</i>	<i>eat</i>	<i>cut down</i>	<i>marry</i>
Gal. /ð/:	đohu	đopo	đobo	ođo	tođa	mođoka
Tbe. /š/:	you	yofo	yoboho	oyomo	toýanga	moýoka

ヒューティングの語彙の他の例 43, 44, 211, 56, 105<sup>(1)</sup>

	initial			medial		
AA	1	25	36	53	94	127
English	<i>head</i>	<i>breast</i>	<i>heart</i>	<i>salt</i>	<i>dog</i>	<i>seed</i>
Gal. /s/:	sahe	susu	sininga	gasi	kaso	gisisi
Tbe. /h/:	haeke	huhu	hininga	gahi	kaho	gihihhi

222語中の他の例 43, 124, 126, 236, 277, 313, 337, 346, 385, 388, 397, 435, 180, 181, 461<sup>(2)</sup>

(1) Van der Veen は 12 例 (154-156) を引用。Ht.=Huetting

(2) Van der Veen は 14 例 (156-157) を引用

Galela: p h l ð s → *fortis*

Tobelo: h Ø ŷ h → *lenis*



sopo, トベロ語 hohoko と一見はなはだ異なるものも多い。しかし、このような相異も多く例を集めれば、そこに一定の音韻対応が規則的に認められる。表5は、同じ種類の子音素対応を各対応について6語ずつ例をあげて、その規則性が疑うべからざるものであることを示したものである。

ここに見られるような対応それ自体については、すでに Hueting [HUETING 1900]をはじめ [VEEN 1915] など多くの学者が指摘をしているが、この対応を支配する原理が何であることを示したものはなかった。筆者は、ここに見られる5つの対応のすべてを支配しているのが Galela 対 Tobelo が強/弱の関係にあり(言語学でいう fortis/lenis), 例えば p/h に関していえば、pの方がhよりも、多くのエネルギーを必要とするので、換言すればエコノミーの原理 [MARTINET 1955] に支配されていると見るものである。

## 2) トベロ語における lenition

世界の言語に広く認められる音韻変化の普遍的原因の一つは、発音の際になるべくエネルギーの消耗が少なくすむ方向に調音器官の運動を調整し、しかもそのために音声による伝達が阻害されない程度に止める——換言すれば言語の体系をこわしてしまわぬ程度に止める傾向である。

このようなエネルギーの経済性(エコノミー)は、しばしば結果として子音の弱化を生ずる。例えば日本語の歴史にも見られる [p]→[f]→[h] の通時的変化は [p] より [f]の方が、[f]より[h]の方が、その発音に際してのエネルギーの消耗が少ないということである。この弱音化は調音に際して筋肉の緊張をゆるめるという形でおこる。これが「最小努力の法則」の音声における実現であり lenition (<L. lenis) と呼ばれる現象である。

この音韻変化が時間軸に沿って生ずる場合、強音 (fortis) の方が古く、弱音 (lenis) の方が新しい、ということになる。ガレラ語の強音がトベロ語の弱音に対応しているのならば、ガレラ語の方が古い音をよく保存し、トベロ語の方が新しい——つまり変化が進んでしまっているということになる<sup>10)</sup>。

なお、この弱音化に向かう変化は音声学的にそれぞれ次のように説明される。

- p → h : 破裂音 → 摩擦音
- h → ∅ : 語中・語頭音消失
- l → ∅ : 語中・語頭音消失

10) Voorhoeve は、筆者のこの意見に同意している [VOORHOEVE 1981: 16]。

$d \rightarrow \hat{y}$  : 破裂音  $\rightarrow$  流音

$s \rightarrow h$  : 言語音のうちで最も振動数の高いのが [s] である。

### 3) ガレラ語の語末音消失

トベロ語の規準音節結合は  $CV_1-CV_2-CV_3$  であるが、ガレラ語は  $CV_1-CV_2$  であって、語末の音節  $-CV_3$  を欠いている。すなわち：

Eng.	<i>ear</i>	<i>nose</i>	<i>tooth</i>	<i>hand</i>	<i>nail</i>
Tbe.	ngauku	ngunungu	ingiri	giama	gitihiri
Gal.	ngau	ngunu	ingi	gia	gitipi

語末における1個または複数の音の消失を語末音消失 (apocope) と称し、通時的には同系語の古い語形と新しい(最近の)語形との間に見られるので、現代語どうしの間でも消失をおこした方の語形を新しいと見なす。例えば、イタリア語とフランス語との間で〈足〉はそれぞれ /piede/ と /pie/[pje] であるので、前者の方が古い形を保っており、後者の方が新しいと見なす。この見方からすれば上述のトベロ語とガレラ語の関係は、規準音節結合に関する限り、トベロ語の方が古いということになる。たしかにガレラ語の語形だけからでは消失した語末音を推定再構することはできない。これが1つの落とし穴であって、この点にだけ気をとられていると、ガレラ語が保存している音素自体の保守性を見落してしまうのである。

ガレラ語の子音音素は、失った語末音素以外は、語全体にわたって古音をよく保存し、一方トベロ語は語末音素を保存しながらも、語全体にわたって弱音化 (lenition) 現象を生じて、子音が変わってしまっていることが少なくないのである。従って PNH の再構を目指す場合、ガレラ語の音素が最も重視されるべきであり、ガレラ語が失った語末音だけを他の同系語から再構すべきなのである。この語末子音再構の問題は章を改めて論ずる (p. 450, V. 参照)。

## IV. ガレラ語と他の NH 諸語との間の子音対応

### 1) NH 諸語の概観とガレラ語の位置付け

NH 諸語は大きく2つのグループに分けられる。大きく2つに分けるという点では諸家の間に同じような傾向が見られるが、細目においては多少の相異がある。(1) まず本島と西離島群という分け方はほぼ言語学的な分け方にも合い、海が境界線になっ

ているので地理的にすっきりしていて、その点好都合なのであるが、テルナテ島に面する本島の Jailolo 地域に Ternate 語が分布しているので、言語的にはすっきりしたものにはならない<sup>11)</sup>。(2)もう一つ類型論的な分け方も可能であり、それは、o という冠詞を持つ言語と持たない言語で東と西の2群に分ける方法である。この問題に関しては既に述べた通りである (p. 429)。これは言語学的には一つの重要な弁別点であるから、方言学における等語線のようなものが、ここで一つ引ける。このような線は語彙、音素、文法構造など、いろいろな規準次第で何本か引くことができる。このような線が何本も重なって一本の太い線が見えてくれば、かなり説得力のある大分類(細分類ではない)が可能になるのであるが、まだ学界全体としてはそこまで進んでいない。(3)もう一つの考え方は、ガレラ語とテルナテ語を2つの極と考え、他はその2つの間にあって構造的(文法的)にテルナテ語の影響の程度によって差を生じているという考えである。テルナテ島は「香料の島モルッカ諸島」の中心として、黄金の島日本と共に大航海時代の西洋人にとって憧れの地であったし、実際にアラビア人、中国人、ポルトガル人、スペイン人、オランダ人などが次々とこの島に殺到した。しかし、そのような民族のもたらした言語の影響だけがテルナテ語を変化させたというわけではない。テルナテは大航海時代以前から、チドレと共にこの地方で最も有力なサルタンの居城がある中心都市であったし、それ以前においても多くの AN 系言語を母語とする人々が集り、特にセレベス東北端のミナハサの政治的・文化的影響下において AN 諸語の影響をまぬがれなかったものと考えられる。

言語が都市を中心に、それも国際的な都市ほど急速に変化することは、世界の各地に多くの例が見られるところである。このように、ハルマヘラ地方では、テルナテが言語変化の泉のような働きをして、語彙・文法ともに周囲に変化を及ぼしていったものと思われる。テルナテから最も遠いガレラ、トベロ地域は、その影響が比較的少なく、言語変化も語彙の借用のレベルに留まり、文法構造 NH は独特のものを最もよ

<sup>11)</sup> Voorhoeve は、まず West Makian を Southern Division とし、その他すべての NH 諸語を Northern Division (ND) とし、ND をさらに Western Division (WD) と Eastern Division (ED) とに分けている。この WD と ED は、ここに述べた東/西の分け方と大体同じ傾向であるが、Sahu も WD の方に入れている。Sahu については、筆者はこの言語が直接 Jailolo のテルナテ語地域と隣接して分布し、テルナテ語の強い影響下において著しく不安定であることを認め、特に構文の面で認められた事実を分析して既に報告しておいた [和田 1980b: 201-204]。彼が Sahu を WD に組み入れた理由について、目的語が動詞の後にくる (SOV→SVO) 点と、後置詞が前置詞に代ってゆく傾向をあげているが、これは筆者が既に指摘したことである [和田 1980b]。動詞が前方に移動してゆく傾向は、トベロ語の南方方言(トベロ市から最も遠い地方で話されテルナテ語地域に近い)でも既に現れている。彼は動詞複合体の中の目的語標識 (object markers) が消失する傾向も指摘している。もっとも、この傾向は a process still under way in Sahu [Voorhoeve 1981: 2] とされているが、これこそ筆者が東と西の中間的な地域を認めるゆえんである。

く保っている。このような見方は、2つの地域を川のような線で分けるのではなく、2つの波紋の重なりのような中間的な地域の存在を認めようとするものであり、系統樹よりも、むしろ wave theory に近い発想である。しかし、2つの波紋の中心のうち、一方は比較的安定しており、他方は変化しやすい、という異なった性質がある。言うまでもなく前者はガレラ語、後者はテルナテ語である。

以下に語彙と構文の面でテルナテ語が NH 語群の中で、いかに特殊であるかを例示しておきたい。

語 彙

AA	1	60	124	157	294	435
English	<i>head</i>	<i>meat</i>	<i>leaf</i>	<i>sky</i>	<i>fear</i>	<i>heavy</i>
Indones.	<i>kepala</i>	<i>daging</i>	<i>daun</i>	<i>langit</i>	<i>takut</i>	<i>berat</i>
Galela	<i>sahe</i>	<i>lake</i>	<i>soka</i>	<i>dipa</i>	<i>modo</i>	<i>tubuso</i>
Loloda	<i>saeke</i>	<i>lakeme</i>	<i>soka</i>	<i>diwama</i>	<i>modongo</i>	<i>tubuso</i>
Tobelo	<i>haeke</i>	<i>akeme</i>	<i>hoka</i>	<i>dihanga</i>	<i>modongo</i>	<i>tubuho</i>
Pagu	<i>saek</i>	<i>lakem</i>	<i>soka</i>		<i>modong</i>	<i>tobuso</i>
Modole	<i>hae'e</i>	<i>a'eme</i>	<i>ho'a</i>	<i>diwanga</i>	<i>modongo</i>	<i>tubuho</i>
Tobaru	<i>saeke</i>	<i>akeme</i>	<i>soka</i>	<i>diwanga</i>	<i>modongo</i>	<i>tubuso</i>
Sahu-Waioli	<i>sae'e</i>	<i>la'eme</i>	<i>so'a</i>	<i>diwanga</i>	<i>mojongo</i>	<i>tubuso</i>
Ternate	<i>dopolo</i>	<i>daging</i>	<i>rau</i>	<i>tufa</i>	<i>kolofino</i>	<i>haso</i>

構 文

	the child	a letter	his father-to	he wrote
	その子は	手紙を	父に	書いた
Galela:	Ma ngopa	o surati	ma baba-ka	wo lefo.
	1	2	3	4
	1	4 ←	2	3
Ternate:	Ngofa nage	(wo)lefo	surat	te una i baba.
	child that	(he)wrote	letter	to his father
Indones:	Anak itu	mengirim	surat	kepada ayahnya.

2) 子音対応表

表6は子音の対応を示す。本島の NH 諸語は子音音素が隣接して現れることはない。しかし西離島の NH 諸語には子音音素が隣接して現れることがある (32 kulcifi,

83 koltidi, 226 mancia, mansia, 180 romdidi, 183 romtoha, 185 tumodí, 186 tufkange)。Pagu 語の一部の語尾 (k, t, l, m, n, ŋ, s) を除けば、本島の NH 諸語の音節は、すべて開音節である。しかし大部分の言語において、くだけた日常の発話においては、時として閉音節が認められる。例えば obong<obongo (Modole 45), tumding<tumudingi (Galela 185)。またマレー語からの借用語は語末において閉音節が保たれている pakean (79)。

原則として語中の子音も語頭の子音も、ともに同じ対応をしているので、語中の例と語頭の例を分けて示すことはしなかった。ただ、Pagu 語では、語尾 (閉音節) の位置で l と r の対立が失われ、l しか現れない。

一番上の欄には言語名の略を横に、一番左の欄には各対応系列を代表する系列記号を縦に示した。この中で P-1, P-2 などのように -1, -2, 番号を付けたのは対応の仕方に 2 種の系列が認められたものを区別したためである<sup>12)</sup>。表 6 と表 7 は筆者の 222 語表 (後述 NH 諸語比較基本語彙表参照) を基礎として作製し、Hueting の表 [HUETING 1908] と Van der Veen の語彙研究 [VAN DER VEEN 1915: 153-219]

表 6 北ハルマヘラ諸語の子音対応 (その 1)

	Gal.	Lol.	Tbe.	Pag.	Mod.	Tba.	SW.	Ter.	Tid.
P-1	p	w	h	w	w	w	w	f	f
P-2	p	p	p	p	p	p	p	p	p
B	b	b	b	b	b	b	b	b	b
M	m	m	m	m	m	m	m	m	m
W	w	w	w	w	w	w	w	w	w
T	t	t	t	t	t	t	t	t	t
D	d	d	d	d	d	d	d	d	d
Đ	đ	j	ŷ	y	d	d	r	{h {ny	y
N	n	n	n	n	n	n	n	n	n
L-1	l	l	∅	l	∅	∅	l	l	l
L-2	l	l	l	l	l	l	l	l	l
R-1	r	r	r	l	{l {r	r	{d {(l)	r	r
R-2	r	r	r	{l {r	r	r	r	r	r
S-1	s	s	h	s	h	s	s	s	s
H	h	h	∅	∅	∅	∅	∅	h	h
K-1	k	k	k	k	'	k	'	k	k
G	g	g	g	g	g	g	g	g	g
NG	ng	ng	ng	ng	ng	ng	ng	ng	ng

12) Voorhoeve は筆者の L-1/L-2 の系列を引用して、この差を生じたのは phonological environment によるものであり proto-phoneme としては 1 つだとしている。

表7 北ハルマヘラ諸語の子音対応 (その2)

		Gal.	Lol.	Tbe.	Pag.	Mod.	Tba.	SW.	Ter.	Tid.	
C	428	c	c	t	t	t	-	c	c	-	<i>ece-eteki</i>
J	431	j		-		j	j	j	j	j	<i>ijo</i> (AN.)
NY	226	ny	ny	ny	ny	ny	ny	-	-	-	<i>nyawa</i> (AN.)
Y	287	y		-	-	y	-	y	i	-	<i>suyu</i>
	233'	y	j	y	y	y	y	(d)			<i>yo, ya</i>
F	127	-		-		f	f	f	f	f	<i>fni</i>
K-2	79	k	k	k		k	k	k	k	k	<i>pakean</i> (AN.)
(ref.)		j	j	j	j						<i>jiko, jobo</i> (< <i>cobo</i> )
S-2	187	s	s	s	s	s	s	s	s	s	<i>si(w)o</i> (AN.)

で確認した。ある系列の子音対応は222語表中に1回しか現れない。これは表6の作製に当っては除外し、別に表7として整理した。表7は本来NH諸語には存在しなかったか、または幼児語・擬音語にしか現れなかった子音系列の対応であるが、現在では完全にNH諸語の中に同化してしまったものである。このうち、C, J, NY, Y, の対応系列はオランダ式スペリングになおすと、そこに共通した特徴が歴然とする：(tj, dj, nj, j), つまり yodization (yod 化, ヤ行音化) の系列なのである。Fortgens は Tobaru 語に関する論文の中でこの問題に触れているが、彼の意見は Tobaru 語ばかりでなく、他のNH諸語に関してもあてはまることである [FORTGENS 1928: 304-305, 317-321]。彼の意見を要約すると、次のようになる。すなわち、

- (1) この種の音を含む例は少ししかない。
- (2) この種の例は大部分、主としてテルナテ語およびマレー語からの借用である。
- (3) これらの語はNH諸語本来のものではない。
- (4) NH諸語を母語とする人々はこれらの音を自然に正確に発音する。
- (5) これらの音は、すでに今日の彼等の音韻体系に同化されてしまっている (burgerrecht gekregen heeft=市民権を獲得した)。

ここで筆者としては、この問題に関して、次の意見を付け加えておきたい。

- (1) C, J, NY, Y, の音は本来のNH語の中にも、わずかながら含まれている。すなわち *jiko, jobo, cobo, yo, ya* など。従って、これらの語の中には222語表の中に含まれていないものがあるが、参考のため、表7の下から2行目にかけておいた<sup>13)</sup>。

13) *jiko* (湾, 入り江)。 *jobo* (出かける) は *cobo* (離れる) の派生語。 *yo, ya* は人称代名詞 (三人称)。

(2) /c/, /j/ は幼児語彙に含まれることが多く、音声文体論的な理由で、いわゆる formal speech に現れることは少ない<sup>14)</sup>。

大部分は言語間で同じ音素が対応しているが、一部は言語間で対応する音素が異なっている。中でも相異がきわだっており、しかも規則的なのが P-1, Ḋ, R-1, L-1, K, S, H, の音素対応系列である。これは次の3)の部分で論ずる。

言語間で同じ音素が対応している（つまり言語により同系列が分岐しないもの）は次の通りである。斜線//ではさんだ音素は、マキアン語（東西とも）を除いたすべての NH 諸語に共通の音素を示す。数字は222語表の参照番号である。

P-2:	/p/	26, 79, 282, 298, 305, 350, 388, 433, 454, 460, 468.
B:	/b/	45, 100, 153, 155, 184, 202, 216, 266, 289, 338, 339, 435, 480.
M:	/m/	63, 95, 167, 179, 180, 183, 185, 188, 189, 230, 231, 236, 238, 278, 279, 280, 294, 328, 349, 366, 427, 464.
W:	/w/	91, 159, 147, 226, 229. (159, 147, 229: Loloda w → Ø)
T:	/t/	18, 35, 68, 118, 123, 140, 146, 180, 182, 183, 184, 185, 186, 190, 280, 291, 305, 308, 316, 338, 345, 349, 435, 449, 455, 460, 478, 486.
D:	/d/	21×2, 68, 140, 147, 157, 180, 185, 294, 299, 324, 389×2, 449, 497 (Sahu: /r/).
N:	/n/	8, 36, 44, 63, 127, 146, 180, 189, 224, 228, 229, 230, 231, 232, 233, 237, 257, 277, 288, 366, 421, 434, 491.
L-2:	/l/	153, 448, 266(d), 275×2, 399, 462.
R-2:	/r/	284, 314, 366, 433'', 477, 478.
G:	/g/	30, 32, 35, 53, 60, 61, 65×2, 82, 87, 95, 118, 140, 188, 232, 237, 258, 266, 267, 290, 314, 316, 322×2.
NG:	/ng/	7, 8, 13, 123, 130, 132, 135, 159, 163, 181, 184, 185, 186, 208, 227, 228, 231, 232, 238, 288, 467, 468, 470. (459: Tobelo: <i>woata</i> )

### 3) ガレラ語と他のNH諸語の子音対応——NH諸語の中のガレラ語の位置付け——

ガレラ語はすべてのNH諸語のうちで最も古い子音を保存している。この事実は

14) ただし、インドネシア語の普及により、これらの音を含む語が formal speech において使用されることが多くなっているため、その影響は避けがたいと思われる。

表 8

	Gal.	Lol.	Tbe.	Pag.	Mod.	Tba.	SW.	Ter.	Tid.
P-1	p	w	h	w	w	w	w	f	f
D	d	j	ÿ	y	d	d	r	{h {ny	y
L-1	l	l	Ø	l	Ø	Ø	l	l	l
R-1	r	r	r	l	{l {r	r	{d {(l)	r	r
S-1	s	s	h	s	h	s	s	s	s
H	h	h	Ø	Ø	Ø	Ø	Ø	h	h
K-1	k	k	k	k	'	k	'	k	k

規則的対応を示す一連の子音系列を検討することによって明らかになる (表 8)。

222語表の実例は次の通りである。

- P-1: 32, 126, 149, (150), 157, 171, 186, 200, 208, 225, 231-2, (299),  
(345), (354), 426.
- Ð: 33, (136), 149, 315, 328. (cf. Huetting: 43, 44, 56, 105, 211)
- L-1: 60, 141, 189, 325, 427, 464, 485.
- R-1: 9, (13), 32, 143, 190, 199, 215, 216, 224, 238, 267, (433), 455, 478,  
482.
- S-1: 1, 25, 36, 43, 53, 61, 94, 124, 126, 127, 180, 236, 277, (279), 287,  
313, (315), 337, 346, 380, 385, 388, 397, 435, 461, 463, 477.
- H: 1, 2, (33), 38, 82, 128, 182, 183, 189, (215), 278, 289, 346, 380,  
386, 418, 434, 459, 461(=463), 485.
- K-1: 1, 5, (7), 26, 34, 38, 60, 89, 94, (123), 124, (126), 128, 132, 143,  
(146), 151, (188), (189), 199, 200, 208, 225, 253, 260, (267), (299),  
(305), 321, 329, 345, 346, 350, 354, 388, 421, 427, (428), (461),  
(468), 482, 491.

### 1. P-1 系 列

ガレラ語の /p/ に対応するのは、他の NH 諸語の /w/, /h/, /f/ である。これは唇音系列である。唇音の音韻変化はその過程が最も追跡しやすいもので、先に述べた軟音化の方向で現れる p→Ø→f→h や (p→)b→β→v→w の推移は、世界各地の言語に見られる普遍的現象として知られているものである。AN 諸語に関する Dempwolff の最初の monograph [DEMPWOLFF 1920] が唇音の対応であったことも示唆的で



表9

p	>	f	>	h
pitu		fitu		hitu
Original IN.		Hova		Rottinese

ある。原則として音推移の過程は言語（または言語群）によって異なるから、印欧語の音推移がそのまま AN 諸語のそれに当てはま

るというわけではない。従って NH 諸語もそれ自体の音推移過程を持っていると考えるべきであろう。しかし NH 諸語は印欧語のような古い文字資料がないので、この過程を推定する方法の一つとして、過去における各種の言語研究から得られた音推移の普遍的パターン、特に軟音化の原理や、さらにエコノミーの原理で説明できるようなパターンの助けをかりることが考えられる。特に AN 諸語に見られる対応は注目に値する。NH 諸語内の対応を理解するのに示唆的な例が多いからである。p と w, h, f, との対応もその例であり、ガレラ語が保っている p 音は、p, w, h, f, の中では唯一の破裂音であり、つまり最も fortis である。ガレラ語の位置付けをするにはこれで充分であり、w, h, f, の中で fortis である度合を段階付けすることはこの際問題ではない。ここで有名な「P 音考」[伊波 1911] を引くまでもあるまい。ただ AN 諸語の例として「唇音の法則」に関する Brandstetter のコメントに出てくる次の例だけをあげておこう(表9) [BRANDSTETTER 1916: 271-272]。

## 2. L-1 系列とH系列

最も明白な変化は、語頭音消失 (apocope), 語中音消失 (syncope), 語末音消失 (apheresis) である。これは、それぞれの音声環境における完全な音の消失である。L-1 と H の子音系列がこの例で、それぞれ /h/ または /l/ を消失する言語と保存する言語に分かれている。L-1 系列に関しては /l/ を保存しているのが Galela, Loloda, Pagu, Sahu-Waioli, Ternate の諸語で、消失するのが Tobelo, Modole, Tobaru, Tidore である。H 系列に関しては /h/ を保存しているのが Galela, Loloda, Ternate, Tidore の諸語で消失するのが Tobelo, Pagu, Modole, Tobaru, Sahu-Waioli である。重要な点はいずれの場合も Galela 語は保存する (conservative) 側に属するということがある。

## 3. K-1 系 列

/k/ と /ʔ/ の対応 (/ʔ/ は声門閉塞 [ʔ] glottal stop) は /k/ が /Ø/ に向かって推移する中間の段階で生ずることが多い。福建語の音節末に見られる。これも軟音化の例である。

広東            福建            北京  
 [-k]    →    [-ʔ]    →    [-Ø]  
 軟口蓋閉塞    声門閉塞    消失

この点でもガレラ語は保守的である。

#### 4. S-1 系 列

/s/ と /h/ の対応は、AN 語族、印欧語族、ウラル語族、日本語など多くの言語に見られ、/s/ → /h/ という軟音化の方向で推移することが多い (表10)。

表10

s	→	h	s	→	h
senā		hainā	siwa		hiwa
Sanskrit		Old Persian	IN		Kambarese

フィリピンの言語と高砂族の言語の間に見られる同じ対応関係を Dahl は \*S-reflexes として表にしている [DAHL 1976: 35]。また Brandstetter は次の例をあげて /s/ の方を原音としている [BRANDSTETTER 1916: 273]。この点でも、ガレラ語は保守的である。

#### 5. R-1 系 列

/r/-/l/-/d/ の対応は Brandstetter の、いわゆる「RLD の法則」と一致する。彼は次の例をあげている [BRANDSTETTER 1916: 267]。

r: pir<sub>1</sub>a    Original IN    “how much”  
 l: pila    Bisaya            //  
 d: pidan    Balinese            //

彼は r<sub>1</sub> (舌(尖)音 r) が原音だと考えた。この系列においてもガレラ語は最も古い音である舌音 r を保存している。

Pagu 語は語末音節が閉音節になることがあり、この位置では R-1 系列、R-2 系列とも /l/ となり、決して /r/ で閉じることはない。従ってこの位置 (final) では R-1, R-2, L-1, L-2 がすべて /l/ となるので、位置による条件変異 (positional variant) が中和 (neutralization) という結果を生じているものである。

## 6. D 系 列

NH 語群の子音系列の中で、最も多種異質の音素が対応する系列で、*d, j, ʔ, y, d, r, h, ny* が対応する。Huetting は、この中で /*ʔ*/ で示した音素を /*λ*/ の記号で表している [HUETING 1908a, 1908b, 1936]。しかしこの音に関する彼の記述は不明瞭である。すなわち、この /*λ*/ は「不明瞭（不純）な [l] (onzuivere l) であり、[d] と [l] の中間である……」と [HUETING 1908a: 5]。また彼の報告 “Iets over…” [HUETING 1936: 315] では、単に “Supradentale” の範疇に位置付けただけで、音声学的解説はしていない。おそらく彼の関心事は /*λ*/ の音自体よりも、Tobelo 語の /*λ*/ が他の NH 諸語の一定の音素と規則的な対応をする事実であり、また Tobelo 語内においても、例えば動詞 *labo* “wound” が、その名詞形 *nabo* と対応する事実であったものと考えられる。筆者が現地で確認したところでは、この /*λ*/ は単なる [j] (yod) 音であった。1979年、テルナテで開かれた Workshop において、Paul Taylor も Tobelo 語の南部方言において同じ事実があることを認めていた。筆者は NH 諸語において様々な音素と規則的対応をなす、この Tobelo 語の音素を単に音声学的に処理すべきでないと考え、あえて /*y*/ と区別して /*ʔ*/ の記号で表しておいた<sup>15)</sup>。

ガレラ語を母語とする者ならば誰でも /*d*/ と /*d*/ とが別の音素であることを知っている。/*d*/ は apico-alveolar であるが /*d*/ は dento-alveolar であるので、日本人の耳には /*d*/ はラ行子音に近く聞こえ、時にはラ行音と区別がしにくいことがあるので、わざと舌をふるわせてみて [r] か [d] かを確認することさえある。この /*d*/ の方がハルマヘラ全域で支配的である。インドネシア一般に、つまり /*d*/ と /*d*/ との対立のない地域でも /*d*/ は舌尖歯茎音で舌尖が前歯の裏にまで達することはない。これに対して /*d*/ の方は舌尖が前歯の裏に接するので、日本人には明らかにタ行子音に聞こえる。つまり /*d*/ は [d] に、/*d*/ は [d] に近いと考えてよい。/*d*/ と /*d*/ の対立があるのは NH 諸語中ガレラ語だけである。/*d*/ 音を含む語彙は /*d*/ 音を含むものより、はるかに種類は少ない。Van Baarda が付加記号をこの音素の方に付けて /*d*/ としたのはそのためであるし、また dot を下に付加しなかったのは、少なくとも結果的にはよかったと判断し、筆者もその表記を踏襲した。もし /*d*/ の方の音素を *d* で表していたら、実際に音声表記として存在する [d] (= [d]) ととられかねないし、もし /*d*/ を [d] とと

15) Dyen は PMP において *y, r, h* の対応を認めているが、UAN の *γ-series* に属するものとしている [DYEN 1965: 303]。この対応は、Conant が既に RGH の法則に関して触れている [CONANT 1911: 71-73]。また Brandstetter は original IN の *l* が、若干のインドネシア諸語において *d, r, y* に変ると述べている [BRANDSTETTER 1916: 267-268]。南島諸語の音韻対応に関しては国立民族学博物館の崎山助教に助言を仰ぐことが少なくなかった。ここに記して謝意を表す。

られると事実に反するからである。しかも [d] に近い d 音がインドネシア地域では支配的である以上、そのような誤解は大きな混乱を読者に与えかねないからである。その意味で Van der Veen はすべての d を ḍ でおきかえてしまっているので誤解しないよう注意して読まねばならない [VAN DER VEEN 1915: 197 etc]。現実の発話で /d/ 音を耳にすることは決して少なくない。この音を含む語彙 (例えば da) の出現する頻度が意外に高いからである。

しかし、/d/ と /ḍ/ とを区別しないで専ら /d/ を発音する者も少なくないが、それは俗 (kasar) であるといわれる。

Fortgens によれば、Tobaru にはかつて /d/ があつたが今日では失われたということである [FORTGENS 1928: 312]。

Dahl は [d], [ḍ], [d̥], [r] は PAN の d<sub>1</sub> 系列に属するとしているが [DAHL 1976: 64], これらは、NH 諸語の対応する音素で表せば d, j, d, r であつて  $\dot{D}$  系列に含まれる音である。

表11

ANに見られる d と y との対  
 例としては、RGH 系列の一つ  
 として C.E. Conant があげた次  
 の例がある [CONANT 1922: 73]  
 (表11)。

English	root
Tagalog	gamót
Ilokano	ramút
Kankanai	lamót
Inabaloi	damót d-
Batan	yamot y-

$\dot{D}$  系列の対応は、P-1 系列と異なり、その推移の過程がわかりにくいものであるが、ガレラ語が保存している /d/ 音は (かりに /d/ になってしまったとしても) fortis であることに変わりはなく、したがって、 $\dot{D}$  系列のうちでは最も古い音である。

結局、全体としてガレラ語は、破裂音を保ち、語頭・語中音消失をしていないという点で最も古い音を保っているといえることができる。従ってガレラ語の語形は、消失した語末音を補うことによって、NH 本島語群の祖形にかなり近い姿を浮かび上らせるものとする<sup>16)</sup>。

16) 唯一の例外は Van der Veen の引用した次の例である [VAN DER VEEN 1915: 159]。この例では、ガレラ語で \*poti となるべきものが woti となっている。

English	hilum (of seed)
Galela	woti
Loloda	potiti
Tobelo	wotiti
Pagu	potit
Modole	potiti
Tobaru	potiti

## V. 語末子音とその再構

現代のNH諸語における規準音節結合はCV<sub>1</sub>-CV<sub>2</sub>-CV<sub>3</sub>であるが、アクセントがCV<sub>1</sub>にある時は原則としてCV<sub>3</sub>が欠落する(ただし、アクセントがCV<sub>2</sub>にある時はCV<sub>3</sub>は欠落しない。詳細についてはⅢ, 3) p. 439を参照)。proto-Galelaを再構するには、この欠落した子音を再構して付け加える必要がある。

この失われた-CV<sub>3</sub>には、他のNH諸語に保存されている-CV<sub>3</sub>から推定することができる。幸い本島のNH諸語は、ガレラ語以外はすべて-CV<sub>3</sub>を保存しているし、さらに、-CV<sub>3</sub>における子音の諸語間における対応の仕方は、CV<sub>1</sub>やCV<sub>2</sub>の場合と全く同じであるから、表2に示した子音対応は、そのまま-CV<sub>3</sub>に適用できるので、再構の作業は語末音節でも特別の調整を必要としない。

なお、基礎語彙222語に関する限り、ガレラ語で失われた-CV<sub>3</sub>の子音はk, ng, n, r, m, t, s, l,であり、p, d, w, h, c, j, ny, f,の例は見当たらない。

ここで-CV<sub>3</sub>がはたして開音節であったかどうかという問題がある。CV<sub>1</sub>-にアクセントがある場合は、筆者の知る限り、例外なく-CV<sub>3</sub>の母音は-CV<sub>2</sub>-の母音に一致しているので、-CV<sub>3</sub>の母音は寄生母音(paragogic vowel)と考えられる。これはKern [KERN 1895], Veen [VEEN 1915]以来定説となっている。最近に至って、さらにVoorhoeveは、-C<sub>3</sub>と考えられる子音の中に有声破裂音(voiced stop)が認められないことから、寄生母音が付加される以前に既に-C<sub>3</sub>は語末子音であった;つまり、閉音節CV<sub>1</sub>-CV<sub>2</sub>-Cであった、という説を述べ、PNHにおける語末閉音節の存在は一層確実となった[Voorhoeve 1981: 5]。確かに語末子音が清濁の対立を失い清音子音だけになることは、世界の多くの言語に認められる現象である。

## VI. 北ハルマヘラ諸語の比較語彙表

表12は、スワデシュ(M. Swadesh)のいわゆる200 word listに基づいているが、同じスワデシュの100 word listに含まれていながら200 word listに含まれていないものがあるので、それを200 word listに加えた[Penchoen 1968: 866-872]。すなわち:

breathe	shoot	six	twenty
---------	-------	-----	--------

clothing	sister	seven	hundred
cook	speak	eight	
cry	spear	nine	
dance	work	ten	

さらに「氷」と「雪」は表からはふいた。本来ハルマヘラ地域に無縁のものだからである。差し引き 222語がこの表に含まれている。

語の配列の順序は東京外国語大学のアジア・アフリカ言語文化研究所 (=AA 研) 発行の「アジア・アフリカ言語調査票」によった。番号は同調査票の語彙番号である。ただし</>をはさんで2つの番号がある場合(例 79/9)は、左が AA 研の調査票の番号、右が Hueting の表 [HUETING 1908b] の番号である。148「ほこり (dust)」は 150「はい (灰, ash)」と同じ語で表わされるので 150 の項にまとめた。また 73「ぼう (棒, stick)」は用途と材質により分化し、92「りょう (猟, hunting)」も対象と方法により異なるので表の後に別個に引用して解説を加えた。

音素記号 /d/ は、Galela 語にだけ見られ、実際の発音は [d] の音であり、/d/ [d] に対立する (448頁参照)。/y/ は Hueting の Tobelo 語における (λ) を保留するためにあえて付加記号を付けたものであるが、音としては [j] である (448頁参照)。

なお、Galela 語が唯一例外的な語形を示す場合は祖形再構の資料として弱い可能性があるので表13に△印を付した。

表12 北ハルマヘラ諸語基本語彙対照表 (222語)

AA/Ht	1/1	2/3	5/85	7/6	8/2
English	head	hair	eye	ear	nose
Indones.	kepala	rambut	mata	telinga	hidung
Galela	sahe(*k)	hutu	lako	ngau(*k)	ngunu(*ng)
Loloda	saeke	utu	lako	ngauku	ngunungu
Tobelo	haeke	utu	lako	nagauku	ngunungu
Pagu	saeke	beleti	lako	nagauku	ngunung
Modole	hae'e	utu	yao, la'o	ngau	ngunung
Tobaru	saeke	utu	ako	ngaoku	ngununu
Sahu	sae'e	utu	la'o	nagau'u	ngunungu
Waioli	=	=	=	=	=
Ternate	dopolo	hutu	lako	ngau	ngunu
Tidore	dofolo	hutu	lao	ngau	ngun
W. Makian	apota	onga	afe	kamou	nude fete
E. Makian	poyo	kaklé	mto	baibio	hungo

AA/Ht English Indones.	9/86 mouth mulut	11/67 tongue lidah	13/ tooth gigi	18/87 neck leher	21/89 back belakang
Galela	uru	lade	ingi(*r)	tolo	dudu(*n)
Loloda	uru	lajema	ingiri		dudunu
Tobelo	uru	akiri	ingiri	tomara	porete
Pagu	ulu	akil		tomal	poret, tomal
Modole	ulu	a'i(li)	ingi	toma	dudung
Tobaru	uru	ngangaeme	ingiri	tomara	dudunu
Sahu	madanga	aidi	ingidi	camala	dudunu
Waioli	udu	=	=	=	=
Ternate	mada	aki	ing	cama	dudu
Tidore	moda	aki	ing	sako	dulu
W. Makian	mada	belubelu	wi	ru	gapu
E. Makian	sumo	plelo	lalho	gowo	lagulo
AA/Ht English Indones.	25/ breast buah dada	26/88 belly perut	30/82 hand tangan	32/214 nail kuku	33/13 leg, foot kaki
Galela	susu	poko(*r)	gia(*m)	gitipi(*r)	đohu
Loloda	susu	pokoro	giama	gitiwiri	·ou
Tobelo	huhu	mamata	giama	gitihiri	ÿou
Pagu	susu	pokol	giam	gitiwil	you
Modole	susu	po'ó	giam	gitiwili	dou
Tobaru	susu	pokoro	giama	gitiwiri	dou
Sahu	susu	pó'olo	giama	kiciwidi	rou
Waioli	=	=	=	=	=
Ternate	isi	oru	gia	kulcifi	hohu
Tidore	isu	oru	gia	(ju)jum	yohu
W. Makian	susu	bódo	ia	jupi	gofi
E. Makian	susu	bingo	komo	kuyo	wè
AA/Ht English Indones.	34 knee lutut	35/148 liver hati	36 heart jantung	37 guts usus	38/32 skin kulit
Galela	puku	gate	sininga	toto	kahi
Loloda	wuwuku	gate	sinyia	toto	kai
Tobelo	buku	gate	hininga	wariki	kai
Pagu	bubukul	gatel		walik	kai
Modole	bubu'u	gate	mili	gale-gale	'ai
Tobaru	bubuku	gate	fuo	toto	kai
Sahu	busu'údu	gatere		uru	eno'ó
Waioli	=	=	gatere	=	=
Ternate	buku-buku	gate	gate	gale-gale	ahi
Tidore	buku-buku	gate	nyinga	gale-gale	ahi
W. Makian	papú	amo	sinéf	gale-gale	fi
E. Makian	pappúko	yoco	wlo	gale-gale	liko

AA/Ht	43	44/154	45/155	53	60
English	fat, grease	blood	bone	salt	meat
Indones.	gemuk	darah	tulang	garam	daging
Galela	saki	au(*n)	kobo(*ng)	gasi	lake
Loloda		aunu	kobongo	gasi	lakeme
Tobelo	haki	awunu	kobongo	gahi	akeme
Pagu	golol	aun	kobong	gasi	lakem
Modole	gutul	aunu	obongo	gahili	a'eme
Tobaru	saki	aunu	kobongo	gasi	akeme
Sahu	gaji	ngaunu	obongo	gasi	la'eme
Waioli	=	=	=	=	=
Ternate	gaji	awo	obo	gasi	daging
Tidore	gaji	au	goka	gasi	daging
W. Makian	gaji	uni	subébi	ase	gagi
E. Makian	gaji	lo	yoyo	yasin	wókono
AA/Ht	61/83	63	64	65	68
English	egg	bird	wing	feather	horn
Indones.	telur	burung, manuk	sayap	bulu	tanduk
Galela	boro	namo	golipupu	gogo	tadu
Loloda	tounu	namoro		gogo	
Tobelo	gohi	namo	gahuu	gogo	taduku
Pagu	gosi	namo		gogo	
Modole	gohi	namo	gatu'u	gogo	tadu'u
Tobaru	gosi	namoro	gatúuku	gogo	taduku
Sahu	gosi	namo	galatu'u	gogo	tadu'u
Waioli	=	=	=	=	=
Ternate	boro	namo	pila	gogo	tadu
Tidore	gosi	namo	pila	gogo	tadu
W. Makian	esi	haiwáni	paya-paya	gigó	tadik
E. Makian	tolo	nurung	háiku	hattulo	tattaku
AA/Ht	76	79	82/92	83	87
English	spear	clothing	snake	worm	louse
Indones.	tombak	pakaian	ular	cacing	kutu, tuma
Galela	kamanu	pakeang	ngihia	kalubati	gani
Loloda	kamanu	pakeangi	tomo	owana, oana	gani
Tobelo	kuama	pakeangi	dodiba	kolubati	gani
Pagu			ngia		tani, gane
Modole	tutudu	pakean	ngia	ulubitanga	gani
Tobaru	kuama	pakean	nyia	kalubati	ga'ani
Sahu	sagu-sagu	pakean	ngia	kolotidi	gane, kane
Waioli	=	=	=	=	=
Ternate	sagu-sagu	pakean	ngohia	koltidi	gan
Tidore	sagu-sagu	pakean	yega	koltidi	gan
W. Makian	sagu-sagu	pakéan	abef	lalati	bene
E. Makian	tombak	pakéan	kólai	let	kut



AA/Ht	89/19	91	94/16	95/176	100/57
English	fish	animal	dog	rope	tail
Indones.	ikan	binatang, haiwan	anjing, asu	tali	ekor
Galela	nawo>(*k)	haiwani	kaso	gumi(*n)	pego
Loloda	naoko		kaso	gumini	bikini
Tobelo	nauoko	aewani	kaho	gumini	bikini
Pagu	naok	aiwani	kaso	gumin	pote
Modole	nao'o	haewani	aho	bubusu'u	bi'ini
Tobaru	naoko	haiwani	kaso	gumini	bikini
Sahu	nayo'o	haiwani	nunu'u	guni	di'imi
Waioli	=	=	kauna	=	=
Ternate	nyau	binatang	kaso	gumi	biki
Tidore	nyau	binatang	kaso	gumi	bi
W. Makian	yao	haiwani	aso	lalongi	biso
E. Makian	yan	haiwan	nnyo	wola	kaku
AA/Ht	118/21	121	123/182	124	125/95
English	wood(tree)	grass	root	leaf	flower
Indones.	kayu	rumput	akar	daun	bunga
Galela	gota	ngangaru	ngutu(*k)	soka	leru
Loloda	gota		ngutuku	soka	dopo
Tobelo	gota	gudara	ngutuku	hoka	huri
Pagu	gota		ngutuk	soka	
Modole	gota	ubutu	ngutu'u	ho'a	bunga
Tobaru	gota	gudara	ngutuku	soka	ratana
Sahu	pongo	gudara	utu'u	so'a	saya
Waioli	=	=	=	=	=
Ternate	hate	gofu	utu	rau	saya
Tidore	hate	gofu	utu	rau	saya
W. Makian	fete	piri-piri	utu	we	saya
E. Makian	ai	dawa	wowo	lu	saya
AA/Ht	126/95	127	128	130	132/112
English	fruit	seed	bark	woods	way
Indones.	buah	benih, biji	kulit(pohon)	hutan	jalan
Galela	sopo(*k)	gisisi	kahi	ponga(*n)	ngeko(*m)
Loloda	sowok		kai	hongana	ngekomo
Tobelo	hohoko	gehiji	kai	hongana	ngekomo
Pagu	sowok		kai	bongana	ngekom
Modole	howo'o	fini	'ai	bongana	nge'omo
Tobaru	sowoko	fini	kai	bongana	ngekomo
Sahu	sowo'o	fini	eno'o	bangana	ngo'omo
Waioli	=	=	=	=	=
Ternate	sofo	fini	ahi	banga	ngoko
Tidore	sofo	fin	ahi	banga	linga
W. Makian	sopo	asál	fi	pangan	gopao
E. Makian	sapo	bibit	liko	uwat	lolan

AA/Ht	135	136	140	141/94	143/17
English	river	mountain	lake	sea	water
Indones.	sungai, kali	gunung, bukit	telaga	laut	air, banyu
Galela	selera	tala	talaga	ngolo(*t)	akc(*r)
Loloda	ngairi	joku		ngoloto	akere
Tobelo	ngaere	ÿoku	taaga	ngooto	akere
Pagu	ngail	yeku	talaga	ngolot	akel
Modole	ngaili	de'u	talaga	ngooto	a'ele
Tobaru	ngairi	deku	talaga	ngooto	akere
Sahu	ngapanga	kie	talaga	ngoloto	banyo
Waioli	=	=	=	teongo	=
Ternate	ake uhi-uhi	kie	talaga	ngolo	ake
Tidore	ake yuhi	kie	talaga	ngolo	ake
W. Makian	songa	pu	talaga	fisi	be
E. Makian	woya	uwat	talaga	wolat	woya
AA/Ht	145/78	146	147	149/105	150(=148)
English	stone	earth	sand	smoke	ash(=dust)
Indones.	batu	tanah	pasir	asap	abu(=abu)
Galela	teto	tona(*k)	dowongi	ÿopo	gaapo
Loloda	seleo	tonaka	dongi	jowo	kawo
Tobelo	helewo	tonaka	dowongi	ÿoho	kafo, kohuhono
Pagu	mamaling	tonak	dowongi	yowo, nyowo	kakawo
Modole	mamalingi	tona'a	dowongi	yowo	fia, 'a'awo
Tobaru	teto	tonaka	dowongi	dowo	kuru
Sahu	madi	tana'a	dowongi	loworo	itomo
Waioli	=	=	=	=	uturu
Ternate	mari	kaha	dowong	nyofo, nycfo	fika
Tidore	mafu	hale	uyu	yoyo	fika
W. Makian	mai	afi	afi	soi	ruru
E. Makian	lâlai	dâdodoba	nyannyana	yasu	tattapil
AA/Ht	151/96	152/169	153	154	155/81
English	fire	wind	cloud	fog	rain
Indones.	api	angin	awan	kabut	hujan
Galela	uku	paro	lobi	rasa	muura
Loloda	uku	wuwulu	lobi		besaka
Tobelo	uku	hidalo	lobi	houramu	awana
Pagu	uku	gagâl	sauro	sauro	besak
Modole	u'u	dado'o	lobi	sauro	beha'a
Tobaru	uku	dadoko	lobi	kakamoro	besaka
Sahu	u'u	karawiana	kamo-kamo	lobi-lobi	besa'a
Waioli	=	lohoko	=	=	=
Ternate	uku	kore	kamo <sup>2</sup> , lobi	suramo	besa
Tidore	uku	kore	lobi	suramo	bosa
W. Makian	ipi	wudu	marú	mararú	pongi
E. Makian	lutan	moda	mayas	lobi-lobi	ulan

AA/Ht	157	159	160	162/69	163
English	sky	sun	moon	star	day
Indones.	langit	matahari	bulan	bintang	hari
Galela	dipa(*ng)	wange	ngoosa	ngoma	wange
Loloda	diwama	ange	iloa	ngoma	ange
Tobelo	dihanga	wange	mede	murumu	wange
Pagu		wange	pede		wange
Modole	diwanga	wange	mede	mamanga	wange
Tobaru	diwanga	wange	mede	ngoma	wange
Sahu	diwanga	wangere	ngara	mudu-mudu	wangere
Waioli	=	=	=	=	=
Ternate	tufa	wange ma lako	ara	ngama	wange
Tidore	tufa	wange	ora	ngoma	wange
W. Makian	tupam	win da afe	odo	pariama	win
E. Makian	langit	nngan ni moto	páit	batól	nngan
AA/Ht	167	171	176	179	180/7
English	year	night	when?	one	two
Indones.	tahun	malam	kapan, bila?	satu	dua
Galela	taun	putu	muruoode	moi	sinoto
Loloda	pariama	(w)utu	kawuru	moi	sinoto
Tobelo	pariama	hutu	muruoode	moi	hinoto
Pagu		wutu, lobil	muluoka	moi	(lo)modidi
Modole	pariama	wutu	muluwo'a	moi	modidi
Tobaru	pariama	biri	muruoode	moi	modidi
Sahu	musung	lobidi	ngau'ia	rimoi	romodidi
Waioli	=	=	sa'alowi'a	=	=
Ternate	taun	gamam	wange rao	rimoi	romdidi
Tidore	taun	sifutu	fio	rimoi	malofu
W. Makian	taon	kaman	pairú	minye	medeng
E. Makian	táun	galmúmit	poíso	pso	plu
AA/Ht	181/8	182/9	183/10	184	185
English	three	four	five	six	seven
Indones.	tiga	empat	lima	enam	tujuh, pitu
Galela	saange	iha(*t)	motoha	butanga	tumudingi
Loloda	jange	joata	motoa	butanga	tumudingi
Tobelo	hange	iata	motoa	butanga	tumidi
Pagu	woange +	loat	motoa	butanga	tumudingi
Modole	haange	hoata	motoa	butanga	tumudingi
Tobaru	saange	soata	motoa	butanga	tumudingi
Sahu	roange	rata	romotoa	rarama	tumudingi
Waioli	=	=	=	=	=
Ternate	raange	raha	romtoha	rara	tumdí
Tidore	range	raha	ramtoha	rora	tumdí
W. Makian	yunge	fati	mafoi	dami	tepedingi
E. Makian	ptol	phot	plim	pwonam	phit
	+lomoange				

AA/Ht	186	187	188/11	189/12	190
English	eight	nine	ten	twenty	hundred
Indones.	delapan, wolu	sembilan	sepuluh	duapuluh	seratus
Galela	tupaange	siwo	mogiowo>(*k)	monohalo(*k)	ratu moi
Loloda	tuange	sio	mogioko	monahalo	ratusu moi
Tobelo	tuhange	sio	ngimoi	monaoko	ratuhu moi
Pagu	tuange	siwo	mogiok	monalok	latus moi
Modole	tuangele	siwo	mogiowo	monao'o	ratu(s) moi
Tobaru	tuangere	sio	mogiowoko	monaoko	ratus moi
Sahu	tuangele	siworo	nyagimoi	nyagiromodidi	latusu moi
Waioli	=	=	=	=	latusu rimoi
Ternate	tufkange	sio	nyagimoi	nyagiromdidi	ratu moi
Tidore	tufkange	sio	nyaboi	nyabalofu	ratu moi
W. Makian	tokbange	siwe	aunge	audengdeng	atus minye
E. Makian	pwat	psiwo	yohaso	yohalu	utin có
AA/Ht	194	195	199/38	200/36	202/74
English	all	some	husband	wife	father
Indones.	segala	beberapa	suami, laki	isteri, bini	ayah, bapak
Galela	moi-moi	ma nuka	roka(*t)	pedeka(*t)	baba
Loloda	moi-moi		rokata	wejeka	ama
Tobelo	moi-moi	moruono	rokata	hekata	ama
Pagu	moi-moi		lokat	wekat	eya, dea
Modole	moi-moi	muluwo'a	lo'ata, o'ata	we'ata	dea
Tobaru	yódumu	ngai muruo	rokata	wekata	dea
Sahu	moimoini	muduoia	naudu	were'a	baba
Waioli	=	muduo'ia	=	=	=
Ternate	moi-moi	rau	raka	foheka	baba
Tidore	moi-moi	ngairau	ra, (nau)	fayá	baba
W. Makian	fámási	iwuya	at	papáa	boba
E. Makian	hasóle	(piso)	ni mon	ni mapin	aba
AA/Ht	203/73	208/15	215/212	216/123	224/37
English	mother	child	brother	sister	male
Indones.	ibu	anak	saudara laki	s. perempuan	lakilaki
Galela	awa, meme	ngopa(*k)	hira(*ng)	bira(*ng)	yanau(*naur)
Loloda	ina	ngoaka	iranga	biranga	nauru
Tobelo	ayo	ngohaka	hiranga	biranga	nauru
Pagu	ela	ngoak	ilang	bilang	naul
Modole	eha, asa	ngoa'a, ngoa	irang	birang	naulu
Tobaru	esa	ngowaka	iranga	biranga	nauru
Sahu	meme	ngowa'a	idanga	bidanga	naudu
Waioli	=	=	idanga	=	=
Ternate	aya	ngofa	hira	fira	nonau
Tidore	yaya	ngofa	hira	fira	nonau
W. Makian	ma	oma	faya da at	faya da papá	aatl
E. Makian	mama	mtó	damô mon	damô mapin	mon

AA/Ht English Indones.	225/35 female perempuan	226 person/nyawa orang, manusia	227 I saya, ak	228 you (sg.) anda, kau	229 he (d)ia
Galela	ngopedeka	nyawa	ngohi, to	ngona, no	una, wo
Loloda	ngowejeka	nyawa	ngoji, to	ngona, no	una, o
Tobelo	ngoheka	nyawa	ngohi, to	ngona, no	unanga, wo
Pagu	ngeweka	nyawa	ngoi, to	ngona, no	unang, wo
Modole	ngewa	nyawa	ngoi, to	ugona, no	una, wo
Tobaru	ngeweka	nyawa	ngoi, to	ngona, no	una, wo
Sahu	were'a	nyawa'a	ngoi, to	ngana, no	una, wo
Waioli	=	=	= =	= =	= =
Ternate	foheka	mancia	ngori, to	ngana, no	una, o
Tidore	(fo)fayà	mansia	ngori, to	ngona	una
W. Makian	papaati	mancia	de	ni	me
E. Makian	mapin	manusia	yak	au	i
AA/Ht English Indones.	230 she (d)ia	231(1) we(ex.) kami	231(2) we (in). kita	232 you(pl.) anda(pl.)	233 they mereka
Galela	muna, mo	ngomi, mi	ngone, po	ngini, ni	ona, yo
Loloda	muna, mo	ngomi, mi	ngone, wo	ngini, ni	onanga, jo
Tobelo	munanga, no	ngomi, mi	ngone, ho	ngini, ni	onanga, yo
Pagu	munng, mo	ngomi, mi	ngone, wo	ngini, ni	ana, yo
Modole	muna, mo	ngomi, miyo	ngone, po	ngini, niyo	ona naga, yo
Tobaru	muna, mo	ngomi, miyo	ngone, po	ngini, niyo	ona, yo
Sahu	muna, mo	ngomi, mi	ngene +, wo	ngini +, ni	âna, du
Waioli	= =	= =	= =	= =	= =
Ternate	mina, mo	ngom, mi	ngone, fo	ngon, ni	ana, i
Tidore	mina	ngom	ngone	ngon	ona
W. Makian	me	imi	ene	ini	eme
E. Makian	i	am	am +ngomi	si, meu +âna	si
AA/Ht English Indones.	236 other lain	237 who? siapa?	238/42 name nama(kecil)	253 what? apa?	256 how? bagaimana?
Galela	somoa	nago	ronga	okia	okia-so
Loloda	somoa	nagongo	romanga	okia	doa
Tobelo	homoa	nagonanga	romanga	okia	(car)okia
Pagu	somoa	nagona	lomang	okia	
Modole	homoa, somoa	nago ona	ronga	o'ia	dodoau
Tobaru	somoa	nago ona	ronga	okia	kokia
Sahu	lelegu	aguna	lomanga	orou	sa'alou
Waioli	=	agiana	=	=	=
Ternate	reregu	nage	ronga	koa	dogasá
Tidore	regu	nage	ronga	mega	(ga)tebé
W. Makian	faese	mu	aem	pamá	(ha)paató
E. Makian	maleo	yalho	so	yapu	dôhapu

AA/Ht	257	258	260	266	267/143
English	here	there	where?	left	right
Indones.	sini	situ	mana?	kiri	kanan
Galela	kanena	kagena	kiaka	gubali	girina(*k)
Loloda		menege	kiaka	gubali	giniraka
Tobelo	nenanga	genanga	kiaka	gubadi	niraka
Pagu	necna		kiaka		guinlak
Modole	nena, nengoa	geena'a	ia'a	gubali	girina'a, guida'a
Tobaru	nengoka	geenaka	kiaka	gubali	giniraka
Sahu	anê	agê	le'a	gubadi	guida'a
Waioli	=	=	ale'a	=	=
Ternate	kanê	kagê	kasô	kubadi	gunyira
Tidore	karê	kagê	kabê	kubali	kunyira
W. Makian	(se)sine	(so)soma	sito	kabali	kayai
E. Makian	annê	addia	polô = pololi	balit	woyan
AA/Ht	275	277/119	278	279	280/45
English	see	hear	smell	breathe	say
Indones.	√lihat	√dengar	√cium, bau	√napas	√sebut
Galela	kelelo	ise(*n)	hame	woma	temo
Loloda	kelelo	isene	ame	ngomasa	temo
Tobelo	oriki	ihene	ame	womaha	temo
Pagu	gelelo	isen	ame	oma	temo
Modole	gelelo, <sup>fitutu</sup> <sub>(ngoli'i)</sub>	ihe, gisene	ame	oma(sa)	temo, tesongo
Tobaru	make	isene	ami	omasa	tesongo
Sahu	odi'i	isene	tumese	ngamasa	terongo
Waioli	ma'e	isen(e)	=	=	=
Ternate	nyodi	ise	hame	ma sugo	waje
Tidore	hoda	baso	hame	ma sugo	waje
W. Makian	ficó	baso	isi	fa'amo	teng
E. Makian	mam	longa	hotan	yol manowo	halúsa
AA/Ht	282/120	283	284	285	287
English	cry	sing	dance	speak	suck
Indones.	√jerit	√nyanyi	√tari	bicara	√isap
Galela	ore(*s)	nyanyi	selo	bicara	suyu
Loloda	poaka			bicara	
Tobelo	poaka	nyanyi	ronge		fiffi
Pagu	poak, pola				wiwis, isis
Modole	orese, todoana	jaji	rongge, roge	ma deade	huyu, oele (water)
Tobaru	orese	jaji	roge	demo	wiwisi
Sahu	poa'a	manyanyi	rongge	kanau	suyu
Waioli	= =	=	roge	=	=
Ternate	torara, ari	nyani	ronggeng	temo	sui
Tidore	ria	(ma)nyani	rongge(ng)	bicara	fifi
W. Makian	egit	nyani	ronggé(ng)	bicara	udu
E. Makian	nángai	nyani	rónggen	bicara	sodas

AA/Ht	288/76	289	290	291	294/113
English	vomit	spit	bite	laugh	fear
Indones.	muntah	√ludah	√gigit	√tawa	takut
Galela	nguna(*ng)	hobi(*r)	goli	dohe	modo(*ng)
Loloda		kobiri	goli	iete	modongo
Tobelo	wunenge	obiri	goli	iete	modongo
Pagu	nguneng	obil	goli	iete, siet	modong
Modole	ngunanga	obili, kibiti	goli	hiyete	modongo
Tobaru	munana	kibiti	goli	iyete	modongo
Sahu	ngunanga	obidi	gogodi	nyelo'o	mojongo
Waioli	=	=	=	=	=
Ternate	una	nguci	logi	ohe	kolofino
Tidore	una	honguci	goli	ohe	kolofino
W. Makian	kawé	ujuf	korutu	(y)ae	mijo
E. Makian	ñwa	idis	babas	namlh	kiu
AA/Ht	298	299	303	305/77	308
English	hit	shoot	throw	pierce	push
Indones.	√pukul	√tembak	√lempar	√tusuk	√dorong
Galela	ngapo	dupu	sariwi, paka	topo(*k)	hito(si)
Loloda	posana	dupuku	paka	topoko	
Tobelo	poha	duhuku	kaweli, paka	topoko	duma
Pagu	posal, gosa	duuk	/pa'a}	topok	dutumal
Modole	cira, goosa	duu, tu'u	awili, tiba'o}	topo'o	hi'ito, tila
Tobaru	asana	duuku	tibako	ruju	tila (ta)
Sahu	ca'olo	tabu	wako	taji	hitomo
Waioli	motu	=	=	= +surono	=
Ternate	cako	tabu	poi	topo	witou
Tidore	cako	torobe	foi	tofa	ito
W. Makian	wakis	tebel	wako	taji	utu
E. Makian	wet	tabal	yeit	tusa	rújuk
AA/Ht	309	310	313	314	315
English	pull	take, hold	rub	scratch	swell
Indones.	√tarik	√bawa	√gosok	√cakar	√gembung +
Galela	lia	aho	eše	rago	đobo
Loloda	liara	a'o	iwiti		jobo
Tobelo	liara	ao	ehe	ragoho	ýoboho
Pagu	tobak	asa	eše		yobos
Modole	toba'a	ahaha	iwili	horoma +	yoboho
Tobaru	tobaka	asa	i'iti	ragoso	yoboso
Sahu	idala	gasa	iwiti	ware	roboso
Waioli	=	=	=	=	=
Ternate	naro	gasa	eše	garo	lebang
Tidore	naro	gosa	eše	koyako	yobo
W. Makian	toga	tege	sikat	garos	rama
E. Makian	tógal	yat	sikat	garis	ndola
				+aragoso	+bengkak

AA/Ht	316	321/218	322/23	324	325/98
English	walk	stand	sit	lie	sleep
Indones.	√jalan	√diri	duduk	√baring	tidur
Galela	tagi	oko	tamie	dadu	kiolo(*k)
Loloda	tagi	oko	gogere	idu	kioloko
Tobelo	tagi, oiki	oko	gogereku	dadu	kioko
Pagu	tagi	tekos	gogel	idu	kiolok
Modole	tagi	o'o, go'onu	gogere	idu	idu
Tobaru	tagi	oko	gogere	idu	idu
Sahu	tagi	te'oso	tirini	dangono	otu
Waioli	=	=	=	=	ngidu
Ternate	pergi	koko	tego	bidi-bidi	hotu
Tidore	tagi	koko	torine	tango	otu
W. Makian	sagal	sosu	totoroso	bola-bola	tifi
E. Makian	tagil	wosal	batalon	hábbaik	tuli
AA/Ht	328/4	329/136	335	337/130	338
English	eat	drink	rotten	fly	swim
Indones.	makan	minum	√busuk	terbang	√renang
Galela	ođo(*m)	udo(*m)	baka, padede	soso(*r)	tobo(*ng)
Loloda	ojomo	udomo	torou	soro	tobongo
Tobelo	oŷomo	okere	torou	hoho	tiboko
Pagu	oyom	okel		solo	tobong
Modole	odomo	o'ele	torou, bounu	hoho	tobo
Tobaru	odomo	okere	dorou	soso	tobongo
Sahu	oromo	o'e	cira	soloro	sasa
Waioli	=	=	=	=	=
Ternate	oho	oke	ira	soro	tobo
Tidore	oyo	yuru	jira	soro	koyafo
W. Makian	fajou	bebé	sa	tagar	galof
E. Makian	hon	imin	lekat	nopa	yos
AA/Ht	339	341	345	346	349
English	float	split	roast	boil	kill
Indones.	apung	√sobek	√bakar	√masak	√bunuh
Galela	bawo	raca	tupu	sakahi	tooma
Loloda		roka	tupuku	sakai	toma
Tobelo	ahini	belaka	tuhuku	hakai	toma
Pagu		pelak	tuuk	sakai	toma, oma
Modole	bao	racang	tuu'u	ha'ai	toma, oma
Tobaru	baoro	etongo	tuuku	sakai	tooma, oma
Sahu	baolo	acingi	taudu	sa'ai	pongolo
Waioli	=	=	= + tu'u, gobu	=	omara
Ternate	copú	aci	hoku	cirum	koru
Tidore	ruru	yaci	fufu	ngan	koru
W. Makian	yarin	labe	sao	isa	kuba
E. Makian	myáring	ganas	magésai	ngohon	pun



AA/Ht	350	353/239	354	355	361/209
English	tie	sew	wash	wipe	cut
Indones.	√ikat	√jahit	√cuci	√hapus	√potong
Galela	piriku	uri(*t)	boka	piki	lui(*t)
Loloda	pilikuru	uriti	wokala	sesara	luiti
Tobelo	ÿikutu	uriti	hoka	hehara	luiti
Pagu	pilliku	dingi	wokal	palis	luit
Modole	puhu'u	dini	wo'a, bo'a	paca, wai'ili	oto, todang
Tobaru	pusuku	uriti	woka	esaka	oto
Sahu	piri'u	dini	uju	pi'idi	taranga
Waioli	=	=	uju	=	= + tola'a
Ternate	deso	din	uju	ese (cf. 313)	tola
Tidore	kone	din	uju	paca, ese	tola
W. Makian	balí	aki	uju	fisi dangi	tala
E. Makian	lika	beit	was	bum	hola
AA/Ht	366/34	379/195	380	384	385
English	work	dig	flow	fall	burn
Indones.	√kerja	√gali	√alir	jatuh	√nyala
Galela	manara(*m)	puai(*t)	uhi(*s)	dota	sora, songara
Loloda	manarama	waiti	uisi	tuere	songara
Tobelo	manarama	haiti	uihi	otaka	hora, hongara
Pagu	manarama	pait	wuis	tiwa	songa
Modole	rajanga, karija	paiti	uihi, wisi	ota'a	loa
Tobaru	manarama	paiti	uihi	yotaka	uku ya aimi
Sahu	manarama	paiti	uisi	eta'a	si ru
Waioli	guino	=	= + sasolo	=	=
Ternate	golaha	fai	uhi, bau (339)	doro	si ru
Tidore	gahi munara	fai	yuhi	peka	loho
W. Makian	karjá	pai	ufi	dare	lupa
E. Makian	mantap	paik	ol	mtat	mnol
AA/Ht	386	388	389/79	393/117	397/5
English	blow	wet	dry(v.)	count	die
Indones.	√tiup	basah	√jemur +	√bilang +	mati
Galela	hoa	pesa	dudu(*ng)	eto(*ng)	sone(*ng)
Loloda		busa	dudungu	etongo	sonenge
Tobelo	wuwo, wowo	pehaka	dudungu	etongo	honenge
Pagu	wuak	pesak	dudung	oim	soneng
Modole	wuwu, wua'a	peha	dudungu	doimi	honenge
Tobaru	uwaka	pesaka	dudungu	doimi	songene
Sahu	hoa	busa	ngonono	roimi	senenge
Waioli	=	=	= + dadi	=	=
Ternate	hiyo	busa	dadi	nyonyohi	sone
Tidore	iru	hobo	dadi	wonge	sone
W. Makian	udu	kaban	neni	paingi	gei
E. Makian	nuho	kabus	gamus	yohan	mot
			+√kering	+√hitung	

AA/Ht	398	399	403	409	412/62
English	live	play	fight	think	come
Indones.	hidup	√main	√juang	√pikir	datang
Galela	oho	uule	kudubu	fikiri	bola
Loloda	ango	ule			suwutu
Tobelo	wango	ule	kudoti	toli	boa
Pagu	wango	ule			sapong
Modole	wango, 'aulu	ule	berjuang	pikiri	boa
Tobaru	wango, oo	ule-ule	canga	kisiri	boa
Sahu	'ahu	bisa	'usaha	tibanga	sapolo
Waioli	=	ma'i'o	=	tibang	ngadolo
Ternate	ahu	tonyiru	makutubu	fikir	kado
Tidore	ahu	biso	makutubu	fikir	yado
W. Makian	bafo	wao	faruju	fikir	podoo
E. Makian	hia	lalawa		pikir	wom
AA/Ht	418/211	421/49	426	427/29	428
English	give	know	not, no	big	small
Indones.	√beri	tahu	tidak	besar	kecil
Galela	hike	nako	-wa, upa	lamo(*k)	ece
Loloda	ike	nako	-wa, uwa	lamoko	ceceke
Tobelo	ike	nako	-ua, uha	amoko	eteki
Pagu	kula	nako	-ua, uwa	lamok	iti
Modole	ula	na'o	-wa, uwa	(y)amo'o	ete'e
Tobaru	kikula	nako	-ua, uwa	(y)amoko	cingoono
Sahu	pula'a	waro	-ua, awa	lamo'o	ceka
Waioli	=	=	=	=	=
Ternate	haka	waro	-uwa, afa	lamo	ici
Tidore	toa	waro	-uwa	lamo	kene
W. Makian	pe	wado	-yo	lamo	kaakú
E. Makian	otik	unak	-te	lolol	kutu
AA/Ht	433	434/219	435	448	449/139
English	thick	thin	heavy	round	sharp
Indones	tebal	tipis	berat	bulat	tajam
Galela	kipiri(*n)	hina	tubuso	pululu(*n)	doto
Loloda	kipirini	ina	tubuso		doto
Tobelo	pirini	ngina-ngina	tubuho	bululu(nu)	doto
Pagu	pilin		tobuso	pululun	doto
Modole	pirini	ina	tubuho	pululu	doto, mango
Tobaru	kipirini	ina	tubuso	pululunu	doto
Sahu	kupiringi	nginara	tubuso	pululu	mangono
Waioli	=	=	=	=	=
Ternate	kofiri	hina	haso	polulu	mango
Tidore	kofiri	hina	haso	fululu	paha
W. Makian	komudu	fine-fine	posoi	boko-boko	mangot
E. Makian	kamudu	nihis	mapot	bakboka	nwata

AA/Ht	450	451	452	454	455/144
English	dull	smooth	straight	dirty	long(l)
Indones.	tumpul	licin	lurus	kotor	panjang
Galela	bongo	maahi	bolowo	pepeke	kuru(*t)
Loloda	agere				kurutu
Tobelo	yabo-ua	paakoro	rikoto, rikitu	peke	kurutu
Pagu		palakol	boloot	pe'e	kulut
Modole	poposo	ngutulu	bolo'a	pere'e	aulu
Tobaru	poposo	nousu	boooto	faja	kakuru
Sahu	mangon-ua	pilijidi	boloto	pece	ti'ara
Waioli	= (cf. 449)	jiji'idi	=	=	=
Ternate	mango-uwa	palisi	loa-loa	faja	gira
Tidore	paha-uwa	cai	loa	faja	gira
W. Makian	gegele	rata	kaolo	gaji-gaji	yaó
E. Makian	tatadi	matjahas	maddodang	kabot	longan
AA/Ht	455/188	456/145	457	458	459/191
English	long(2)	short	far (cf. 455)	near	wide
Indones.	lama	pendek	jauh	dekat	lebar
Galela	teka	timisi	kuru(*t)	dumu	ngoha(*t)
Loloda	tekana	totiawo	kurutu	sebanga	ngoata
Tobelo	dekana	polulu, tipoko	kurutu	tigi	woata
Pagu	ki'ang	tipoko, soli	kulut	soli	ngoat
Modole	tão	tipo'o	auli'a	tipo'ono	ngoata
Tobaru	dekana	tipoko	kurutika	sorino	yamo
Sahu	ka'udu	boko'o	kudutu	sebanga	rara
Waioli	=	=	=	=	=
Ternate	roro	podo	gudu	seba	lamo
Tidore	suru	podo	gulu	seba	lamo
W. Makian	golo	katoba	golo	seba	lamo
E. Makian	mangancō	pokat	malou	dakin	loas
AA/Ht	460	461	462	463/170	464
English	narrow	hot	cold(l)	warm	cold(2)
Indones.	sempit	panas	dingin	hangat	dingin
Galela	peneto	sahu(*k)	alo	sahu(*k)	mala(*t)
Loloda		sahu	alo	sahu	malata
Tobelo	peneto	hauku		hauku	maata
Pagu	peto	sauk		sauk	malat
Modole	peeto	hau'u	midi(ng), alo	boboreaso	maata
Tobaru	pe'ctoro	sauku	alo	boroaso	maata
Sahu	peletoro	sasa'u	alo	borohaso	malata
Waioli	rara-uwa	=	=	=	= + alo foloi
Ternate	luas-uwa	susahu	alo	borohaso+	alo foloi
Tidore	sempit	sahu	alo	mariyasu	alo foloi
W. Makian	kakú	sasafo	gararo	(hesit.)	gararo
E. Makian	môtak	makowai	midin	mamawol	(hesit.)
				+sahu	(2)-water

AA/Ht	467	468	470	471	472
English	new, young	old	full	many	few
Indones.	baru, muda	tua, lama	penuh	banyak	sedikit
Galela	momuane, kiau	ngowo	wedo	dala	ucu
Loloda		pereki	omanga	ngoe	dewi, regu
Tobelo	hungi, giau	pereki	omanga	woe	utu
Pagu	giyau	pereki	omang	lepe	utu
Modole	hungi, giau	pere'i	omanga	lepe	bebeawa
Tobaru	sungi	ngowo	omanga	kudai	kaudaiwa
Sahu	sungi	ngowo	romanga	repe	cekaua
Waioli	=	= +piri'i	=	=	=
Ternate	sungi	ngo	oma	dofu	cabú
Tidore	sung	ngowo	yoma	dofu	kambú
W. Makian	dotopo	dogolo	guma	pake	dootu
E. Makian	powo	banbono +pereki	mhon	loci	kiti
AA/Ht	477/50	478/25	479	480	481
English	white	black	red	blue	green
Indones.	putih	hitam	merah	biru	hijau
Galela	are(*s)	taro(*m)	sawala	bisi	ijo
Loloda	arese	taromo		biru	
Tobelo	arehe	taromo	dokara	bihi	biru
Pagu	ares	talom, kokotu	kukulung	bis	
Modole	arehe	taromo	terebo'o	biru	ijo
Tobaru	arese	taromo	tereboko	biru	ijo
Sahu	bubudo	kokotu'u	kokolili	biru	ijo
Waioli	bubudana	=	=	=	=
Ternate	bubudo	kokotu	roriha	biru	ijo
Tidore	(bo)bulo	kotu	kohori	biru	ijo
W. Makian	bulo	kekei	lolupa	biru	ijo
E. Makian	bulang	kuda	makot	biru	ijo
AA/Ht	482	485	486/71	487	491
English	yellow	good	bad	right	if
Indones.	kuning	baik	buruk	benar	kalau
Galela	kurati	loha	torou	tero	náko-so
Loloda		loa	torou		nako
Tobelo	kurati	oa	torou	tiai	nako
Pagu	kulati	loa	tila	tero	nako
Modole	'urati	owa	tiiha+	goungu	mana'o
Tobaru	kurati	owa	torou	gongu	nákoso
Sahu	bauru	lalá	cira	tero	sa'álou
Waioli	kudaci	= +laa	=	=	=
Ternate	kuraci	laha	ira	tero	coba
Tidore	kuraci	laha	jira	dahe	kalu
W. Makian	burei	deminyá	sá	de gou	kalo
E. Makian	makninis	hia	lekat +tiisa	ntalai	polo

AA/Ht	497
English	and
Indones.	dan
Galela	de
Loloda	de
Tobelo	de
Pagu	de
Modole	de
Tobaru	de
Sahu	re
Waioli	=
Ternate	se
Tidore	se
W. Makian	lo
E. Makian	lo

次の語は、表の1項目に1語で対応させることができないので、解説の形で記すことにする。

73. ぼう (棒, stick, bar, pole) は用途と材質により次のように分化する。Galela 語では *depi* (たたく棒), *didiki* (横棒, 通せん坊)。Tobelo 語では *gogohara* (たたく棒), *tutukunu* (つえ), *dodipo* (木の実をとる棒)。Modole 語 *rohe, jaga*。Tobaru 語 *roese*。Sahu-Waioli 語 *ate*。Ternate 語 *hate, jaga*。Tidore 語 *jaga*。西 Makian 語 *bake*。東 Makian 語 *lako*。

92. りょう (猟, hunting) は対象と方法により異なる。Galela 語 *diha* (犬で), *roda* (鉄砲で), *kaukau* (狩り出し)。Tobelo 語 *niki* (追う), *nanamo* (鳥を), (po) *pedeke* (蛙を), *limoro* (鉄砲で)。Modole 語は *aho* (犬で)。Tobaru 語 *roda*。Sahu-Waioli 語 *tioma*。Ternate 語 *buruburu* (*buru* < *pemburuan*)。Tidore 語 *dode*。西 Makian 語 *fa sagusagu*。東 Makian 語 *tabal*。

148. 「ほこり (dust)」は NH 語においては、次の例以外はすべて 150 「はい (灰, ash)」と同じであるから 150 の項にまとめた。

	ほこり (dust)	灰 (ash)
Sahu	koroudu	itomo
Waioli	koroudu	uturu

234. *they* には性別がない。

496. 位置, 方向を表す後置詞 (接尾辞) *-ka, -no, -(y)e, -ku, -sa, -ko* は英語の *at, to* など, インドネシア語の *pada, di, ke* などに相当するが, NH 諸語においては, はなはだ複雑精緻に分化しており, 別に論じたので吉田論文も併せて参照されたい [YOSHIDA 1980, 和田 1979]。ただし Ternate 語と Tidore 語では分化せず *toma* 一語でほとんどの位置・方向を示している。

498. 「で (with)」と 497 「と (and)」は同じ語 *de* で表される。Galela 語においては, *with/and* を特に区別する時は *dede/deo* として対立させることが多い。*dede* は Tobelo, Tobaru でも用いられる。

表13 ガレラ語基本語彙 222語の索引

194 all	moi-moi	186 eight	tupaange	491 if	nako-so
497 and	de	5 eye	lako	in → at	
91 animal	haiwani	384 fall	dota	349 kill	tooma
150 ash	gaapo	457 far	kuru(*t)	34 knee	puku
496 at	-ka, etc.	43 fat	saki	421 know	nako
bar → stick		202 father	baba	140 lake	talaga
21 back	dudu(*n)	294 fear	modo(*ng)	291 laugh	dohe△
128 bark	kahi	65 feather	gogo	124 leaf	soka
26 belley	poko(*r)	225 female	ngopedeka	266 left	gubali
427 big	lamo(*k)	472 few	ucu	leg → foot	
63 bird	namo	403 fight	kudubu	324 lie	dadu△
290 bite	goli	151 fire	uku	little → small	
478 black	taro(*m)	89 fish	nawo(*k)	398 live	oho△
44 blood	au(*n)	183 five	motoha	35 liver	gate
386 blow	hoa	339 float	bawo	455 long	kuru(*t)
45 bone	kobo(*ng)	380 flow	uhi(*s)	87 louse	gani
25 breast	susu	125 flower	leru	224 male	yanau(*naur)
279 breathe	woma(*s)	337 fly	soso(*r)	man → person, male	
215 brother	hira(*ng)	154 fog	rasa	471 many	dala△
385 burn	sora, songara	33 foot	đohu	60 meat	lake(*m)
208 child	ngopa(*k)	182 four	iha(*t)	160 moon	ngoosa△
claw → nail		126 fruit	sopo(*k)	203 mother	awa, meme
79 clothing	pakeang	470 full	wedo△	136 mountain	tala
153 cloud	lobi	418 give	hike	9 mouth	uru
462 cold	alo	485 good	loha	32 nail	gitipi(*r)
412 come	bola	121 grass	ngangaru△	238 name	ronga
393 count	eto(*ng)	481 green	ijo	460 narrow	peneto
282 cry	ore(*s)	37 guts	toto	458 near	dumu
361 cut	lui(*t)	2 hair	hutu	18 neck	tolo△
284 dance	selo	30 hand	gia(*m)	467 new	momuane△, kiau
163 day	wange	229 he	una	171 night	putu
397 die	sone(*ng)	1 head	sahe(*k)	187 nine	siwo
379 dig	puai(*t)	277 hear	ise(*n)	8 nose	ngunu(*ng)
454 dirty	pepeke	36 heart	sininga	426 not	-wa, upa
94 dog	kaso	435 heavy	tubuso	468 old	ugowo
329 drink	udo(*m)	257 here	kanena	179 one	moi
389 dry (v.)	dudu(*ng)	298 hit	ngapo	236 other	somoa
450 dull	bongo	68 horn	tadu	path → way	
148 dust → ash		461 hot	sahu(*k)	226 person	nyawa
7 ear	ngau(*k)	256 how	okia-so	399 play	uule
146 earth	tona(*k)	190 hundred	ratu moi	pole → stick	
328 eat	ođo(*m)	92 hunt(ing)	nih, etc.	309 pull	lia(*r)
61 egg	boro	199 husband	roka(*t)	308 push	hito
		227 I	ngohi		

155 rain	muura	149 smoke	đopo	118 tree, wood	gota
479 red	sawala	451 smooth	maahi	189 twenty	monohalo(*k)
267 right(kanan)	girina(*k)	82 snake	ngihia	180 two	sinoto
487 right(benar)	tero	195 some	ma nuka	288 vomit	nguna(*ng)
135 river	selera $\Delta$	285 speak	bicara	316 walk	tagi
road $\rightarrow$ way		76 spear	kamanu	463 warm	sahu(*k)
123 root	ngutu(*k)	289 spit	hobi(*r)	354 wash	boka(*l)
95 rope	gumi(*n)	321 stand	oko	143 water	ake(*r)
335 rotten	baka, padede	162 star	ngoma	132 way	ngeko(*m)
448 round	pululu(*n)	73 stick	tepi, didiki	231 we(ex.)	ngomi, mi-
313 rub	ese	145 stone	teto $\Delta$	231' we(in.)	ngonc, po-
53 salt	gasi	452 straight	bolowo	253 what	okia
147 sand	dowongi	287 suck	suyu	176 when	muruoode
280 say	temo	159 sun	wange	260 where	kiaka
314 scratch	rago	315 swell	đobo	477 white	are(*s)
141 sea	ngolo(*t)	338 swim	tobo(*ng)	237 who	nago
257 see	kelelo	100 tail	pego $\Delta$	459 wide	ngoaha(*t)
127 seed	gisisi	talk $\rightarrow$ speak		200 wife	pedeka(*t)
185 seven	tumudingi	188 ten	mogiowo(*k)	152 wind	paro
353 sew	uri(*t)	(251) that	(ma)gena	64 wing	golipupu
449 sharp	doto	258 there	kagena	355 wipe	piki
299 shoot	dupu(*k)	233 they	ona, yo-	498 with	de, dede
456 short	timisi $\Delta$	433 thick	kipiri(*n)	woman $\rightarrow$ female	
283 sing	nyani	434 thin	hina	wood $\rightarrow$ tree	
216 sister	bira(*ng)	409 think	ngitu, fikiri	130 woods	ponga(*n)
322 sit	tamie	(249) this	(ma)nen	366 work	manara(*m)
184 six	butanga	thou $\rightarrow$ you		83 worm	kalubati
38 skin	kahi	181 three	saange	ye $\rightarrow$ you (pl.)	
157 sky	dipa(*ng)	303 throw	sariwi, paka	167 year	taun $\Delta$
325 sleep	kiolo(*k)	350 tie	piriku(*r)	482 yellow	kurati
428 small	ece	11 tongue	lade(*m)	228 you (s.)	ngona, no-
278 smell	hame	13 tooth	ingi(*r)	232 you (pl.)	ngini, ni-

## 文 献

## Abbreviation:

BKI=Bijdragen tot de Taal-, Land- en Volkenkunde van Nederlandsch-Indië. Martinus Nijhoff.

CTL=Current Trends in Linguistics. Mouton.

PLS=Pacific Linguistics Series. A.N.U. Canberra.

SES=Senri Ethnographical Studies. N.M.E. Osaka.

VBG=Verhandelingen van het Koninklijk Bataviaasch Genootschap van Kunsten en Wetenschappen, Batavia.

VKI=Verhandelingen van het Koninklijk Instituut voor Taal-, Land- en Volkenkunde van

- Nederlandsch-Indië. Martinus Nijhoff.  
ZES=Zeitschrift für Eingeborenen-Sprachen. Dietrich Reimer.
- ADRIANI, N. and A. C. KRUYT  
1914 *De Bare'e-Sprekende Toradja's van Midden-Celebes* III, Batavia.
- ANDERSON, J. M.  
1973 *Structural Aspects of Language Change*. Longman Group Ltd.
- BAARDA, M. J. VAN  
1895a *Een Galelareesch-Hollandsche Woordenlijst*. Martinus Nijhoff.  
1895b Fabelen, verhalen en overleveringen der Galelareezen. *BKI* 45: 192-290.  
1904 Het Loda'sch. *BKI* 56: 317-496.  
1908 *Leidraad bij het bestudeeren van 't Galela'sch Dialekt, op het Eiland Halmaheira*. Martinus Nijhoff.
- BARETTA, N. M.  
1917 *Halmahera en Morotai*. Mededeelingen van het Bureau voor de Bestuurszaken der Buitenbezittingen bewerkt door het Encyclopaedisch Bureau, Afl. 13, Javasche Boekhandel en Drukkerij.
- BRANDSTETTER, R.  
1916 *An Introduction to Indonesian Linguistics*. Asiatic Society Monographs XV. The Royal Asiatic Society.
- CAPELL, A.  
1975 The "West Papuan Phylum": General, Timor Areas and Further West. *Papuan Languages and the New Guinea Linguistic Scene*. *PLC* C-38: 667-716.
- CLERCO, F. S. A. DE  
1890 *Bijdragen tot de kennis der residentie Ternate*. D. J. Brill.
- CONANT, C. E.  
1911 The RGH Law in Philippine Languages. *Journal of American Oriental Society* 31: 70-85.
- COWAN,  
1957 Prospects of a "Papuan" Comparative Linguistics. *BKI* 113: 70-91.  
1959 A Large Papuan Language Phylum in West New Guinea. *Oceania* 28: 159-166.
- DAHL, O. C.  
1976 *Proto-Austronesian*. Curzen Press.
- DEMPWOLFF, O.  
1920 Die Lautentsprechungen der indonesischen Lippenlaute in einigen anderen austronesischen Südseesprachen. *ZES* 2.  
1934 Vergleichende Lautlehre des austronesischen Wortschatzes: 1. Induktiver Aufbau einer indonesischen Ursprache. *ZES* 15.  
1937 Vergleichende Lautlehre des austronesischen Wortschatzes: 2. Deduktive Anwendung des Urindonesischen auf austronesische Einzelsprachen. *ZES* 17.  
1938 Vergleichende Lautlehre des austronesischen Wortschatzes: 3. Austronesisches Wörterverzeichnis. *ZES* 19.
- DYEN, I.  
1965 Formosan evidence for some new Proto-Austronesian phonemes. *Lingua* 14: 285-305.
- ELLEN, G. J.  
1916a Woordenlijst van het Pagoe op Noord-Halmahera. *BKI* 72: 64-102.  
1916b Woordenlijst van het Modole op Noord-Halmahera. *BKI* 72: 103-139.  
1916c Verhalen en fabelen in het Pagoe met vertaling. *BKI* 72: 142-195.  
1916d Verhalen en fabelen in het Modole met vertaling. *BKI* 72: 198-232.
- FORTGENS, J.  
1917 *Woordenlijst van het Ternatesch*. Semarang, van Dorp.  
1928a Grammatikale aantekening van het Tabaroesch. *BKI* 84: 300-544.



- 1928b Tabaroesche volksverhalen en raadsels. *BKI* 84: 300-544.  
 1930 Ternata'sche texten. *BKI* 86.
- GREENBERG, J.  
 1971 The Indo-Pacific Hypothesis. *CTL* 8 (*Linguistics in Oceania*): 807-871.
- HARRIS, J. W.  
 1969 *Spanish Phonology*. M.I.T. Press.
- HARTMANN, R. R. K. and F. C. STORK.  
 1972 *Dictionary of Language and Linguistics*. Applied Science Publishers Ltd.
- HUETING, A.  
 1908a *Tobeloreesch-Hollandsch Woordenboek met Hollandsch-Tobeloreesche inhoudsopgave*. Martinus Nijhoff.  
 1908b Iets over de "Ternataansch-Halmaherasche" Taalgroep. *BKI* 60: 369-411.  
 1936 Iets over de spraakkunst van de Tobeloreesch Taal. *BKI* 94: 294-407.
- 伊波普猷  
 1911 「P.音考」『古琉球』。
- KERN, A.  
 1895 Opmerkingen over 't Galelareesch. *BKI* 5(6): ??-??, 5(7): ??-??.
- LAYCOCK, D. C. and C. L. VOORHOEVE  
 1971 History of Research in Papuan Languages. *CTL* 8 (*Linguistics in Oceania*): 509-540.
- MAAN, G.  
 1940 Boelische-Nederlandsche Woordenlijst met Nederlandsch-Boelisch Register. *VEG* 74 (3), A.C. Nix.  
 1951 Proeve van een Bulische Spraakkunst. *VKI* 10.
- 馬淵東一  
 1974 『馬淵東一著作集』第2卷 社会思想社。
- MARTINET, A.  
 1955 *Economie des changements phonétiques*. A. Francke, Bern.
- 岡 正雄  
 1958 『日本民族の起源』平凡社。
- PANCHOEN, T.  
 1968 La Glottochronologie. "Le Langage" sous la direction d'André Martinet. Encyclopédie de la Pléiade, pp. 865-884.
- QUACKENBUSH, E. M.  
 1968 *From Sonsorol to Truk: A Dialect Chain*. University Microfilm International Ann Arbor, Michigan.
- ROEST, J. L. D. VAN DER  
 1905 *Woordenlijst der Tobelo-Boëng-taal*. Martinus Nijhoff.
- 崎山 理  
 1974 「マライ・ポリネシア語族におけるブリ語 (ハルマヘラ島) の系統」『南島語研究の諸問題』pp. 196-222。
- SALZNER, R.  
 1960 *Sprachenatlas des indopazifischen Raumes*. Otto Harrassowitz.
- VEEN, H. VAN DER  
 1915 *De Noord-Halmahera'se taalgroep tegenover de Austronesiese talen*. L. van Nifterik.
- VICENTE, A. Z.  
 1970 *Dialectologia Española*. Gredos.
- VOORHOEVE, C. L.  
 1975 Languages of Irian Jaya: Checklist, Preliminary Classification, Language Maps, Wordlists. *PLS* B-31.  
 1981 *Some Comparative Notes on the Non-Austronesian Languages of North Halmahera*. Paper presented at Seminar Halmahera dan Raja Ampat.

和田 北ハルマヘラ諸語の子音対応とガレラ語の示す古音

WADA, Y.

1980a Correspondence of Consonants in North Halmahera Languages and the Conservation of Archaic Sounds in Galela. *SES* 7: 497-529.

1980b Aspects of Directives in North Halmahera Languages. *Indonesian Journal of Cultural Studies*. Jilid III (2): 198-204. Jakarta.

WURM, S. A.

1971 The Papuan Linguistic Situation. *CTL* 8: 545-546.

1975 Papuan Languages and the New Guinea Linguistic Scene. *New Guinea Area Languages and Language Study, I. PLS C-38*.

YOSHIDA, S.

1980 Folk Orientation in Halmahera with Special Reference to Insular Southeast Asia. *SES* 7: 19-88.